

2024 年度日本陸水学会表彰式と総会議事次第

日時: 2024 年 10 月 19 日 (土) 15:15~18:35

場所: 工学部百周年記念館

表彰式

- 1) 小中高校生ポスター賞
- 2) 国際交流奨励賞
- 3) 陸水学雑誌論文賞・Limnology Excellent Paper Award
- 4) 吉村賞・田中賞

受賞記念講演

吉村賞

田中賞

会長挨拶

お祝いの言葉

(休憩・会場準備)

総会

会長挨拶

議長の選出および書記の指名

報告事項

1. 庶務幹事中間報告 (別添資料 1)
2. 企画委員会 (別添資料 2)
3. 和文誌編集委員会 (別添資料 3)
4. 英文誌編集委員会 (別添資料 4)
5. 会計幹事 (別添資料 5)
6. 国際幹事 (別添資料 6)
7. 広報・情報幹事 (別添資料 7)
8. 環境幹事 (別添資料 8)
9. 田中賞・吉村賞選考委員会

審議事項

1. 次期大会の準備状況

2025 年度

【会場】北海道大学 クラーク会館（札幌市）

【日程】2025 年 9 月 25 日(木)～9 月 28 日(日)

2026 年度

中部地区での開催を想定

2. 会計幹事（別添資料 5）

1) 2023 会計監査（資料 4-1）

2) 2025 予算書(案)_一般会計（資料 4-2）

3. 会則の改定（別添資料 1）

会則第 20 条

「会誌の発行のために、和文誌編集委員会と英文誌編集委員会を設け、各委員会に編集委員若干名をおく。」を「会誌の発行のために、和文誌編集委員会と英文誌編集委員会を設け、各委員会に編集委員をおく。」に変更

その他

- ・手塚元会長に関して
- ・和文誌からのお願い
- ・英文誌からのお願い

2024 年中間報告 庶務幹事

2024 年 10 月 18 日 評議員会

千賀 有希子

・幹事会・評議員会の開催

評議員会メール審議

- 1) 陸水学会熊本大会の開催日の変更（1 月 29 日）
開催日程を「10 月 12～14 日」から「10 月 18 日金曜日～20 日日曜日」へ変更を承認
- 2) 英文誌の編集委員長と編集幹事の次期候補者（4 月 8 日）
次期編集委員長：土居秀幸さん（京都大学大学院情報学研究科）
次期編集幹事：伊藤雅之さん（京都大学生存圏研究所）について承認
- 3) 2024 年度国際交流奨励賞審査結果（案）について（7 月 8 日）
受賞者 2 名について承認
- 4) Limnology Excellent Paper Award の審議結果について（7 月 31 日）
受賞論文 1 報について承認
- 5) 日本陸水学会田中賞・吉村賞選考委員会選考結果について（8 月 2 日）
田中賞と吉村賞の受賞者を各 1 名ずつ承認
- 6) 陸水学雑誌論文賞について（8 月 2 日）
受賞論文 1 報について承認

幹事会・評議員会

- 1) 第 1 回拡大幹事会（3 月 11 日，オンライン会議）
- 2) 第 2 回拡大幹事会（9 月 9 日，オンライン会議）
- 3) 第 1 回評議員会（10 月 18 日，熊本大学）

・協賛，後援

- ・第 61 回アイソトープ・放射線発表会
- ・第 15 回 地理学連携機構，地理関連学会連合，人文・経済地理関連学会協議会

・転載許可（2 件）

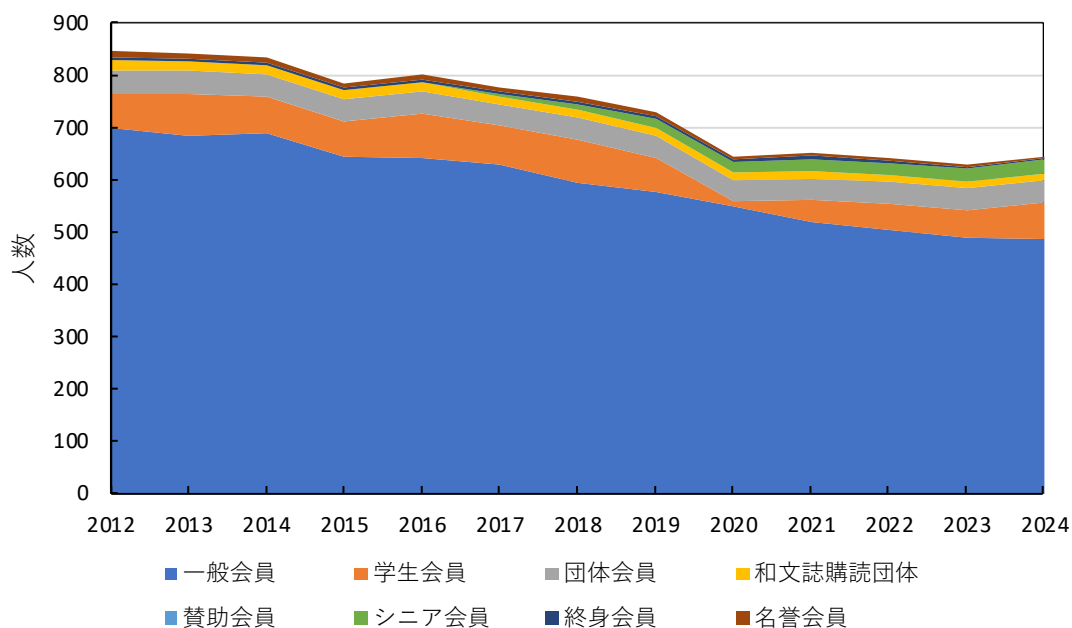
申請者 1：芳賀ら（2006, 2019, 2023）陸水学雑誌，芳賀と石川（2011, 2013, 2015）陸水学雑誌から「展示解説書」および「展示パネル」に転載

・学会員数の推移に関して

2024/10/16 現在 会員数 644（うち一般会員 487 名，学生会員 70 名，シニア会員 27 名，名誉会員 3 名，終身会員 3 名，団体会員 41 団体，和文誌購読会員 13 団体）

参考：2023/10 時点と比較し，一般会員 1 名減，学生会員 16 名増，シニア会員 1 名増。

2012～2024年の会員数推移



・田中賞・吉村賞について

田中賞は熊谷道夫先生，吉村賞は刘鑫先生が受賞

・国際文献社との次年度契約

(2)メーリングリスト

(変更前)

- イ 設定費 1件 3,000円
- ロ 運用費 1月 1,000円
- ハ 更新受付基本料 1月 2,000円
- ニ 更新費 1月 2,000円

(変更後)

- イ 運用費 1月 1,000円
- ロ 更新受付基本料 1月 2,000円
- ハ 更新費 1月 3,000円

- イ 設定費 1件 3,000円→削除
- ニ 更新費 1月 2,000円→3,000円

会員管理の項目にあったメーリングリスト管理を含めた価格に変更させていただければと存じます。

なお、メーリングリストについて、弊社担当より下記のご提案がございました。

=====

メーリングリスト (limnol@jslim.jp) の登録メールアドレスの数が多く、500 個以上登録できるレンタルサーバーが「Wadax WP スタンダードプラン」(26,400 円/年) でした。

現在、こちらのレンタルサーバーを利用しています。

メーリングリスト配信を利用しないで弊社で提供している HDE メール配信のサービスに移行する場合はこの(26,400 円/年)のレンタルサーバーを利用する必要がなくなり、安いレンタルサーバーを利用することができます。

ただし、メーリングリストを廃止して HDE メール配信のサービスに移行すると特定の管理者しかメールを配信できなくなるという制限が生じます。

特定の管理者様が配信する文章を受取って、管理者様が配信するというフローに変わります。

=====

上記のように、現在ご登録の会員様が自由にメールを配信できるよう設定しておりますが、そちらを弊社提供のメール配信サービスに変更していただくと、安いレンタルサーバーをご利用いただけるほか、現在発生しているメーリングリストの費用が発生しなくなります。

ただし、配信については配信管理者が行うこととなりますので、配信管理者の負担が増えることになります。

・その他

- ・日本学術振興会賞，育志賞への推薦者は無し
- ・大会における学部学生の聴講参加無料化
- ・「日本陸水学会優秀口頭発表賞選考」と「日本陸水学会優秀ポスター賞選考」内規の変更対象者を「若手会員（大会開始2週間前の時点で学生会員であるかもしくは最終学歴後5年以内の会員）」から、「学生会員」に変更
- ・未来開拓枠の対象者を「修士課程学生および学部学生」から「学部学生」に変更

2024年10月18日

企画委員会報告

報告者：企画委員長 内井 喜美子

1. 2024年企画委員会構成メンバー

委員長：内井 喜美子（2025年12月31日まで）

委員：井上 栄壮、朴 紫暎、霜鳥 孝一（2024年12月31日まで）

委員：岡崎 友輔、竹中 將起、石井 伸昌（2025年12月31日まで）

2. 企画委員会の開催**(1) 第1回企画委員会（2024年5月23日18:00-19:10、オンライン）**

出席者：石井、朴、岡崎、井上、霜鳥、竹中、内井（以上、企画委員）

伊藤（熊本大会実行委員）

a. 第88回熊本大会について、申し込みフォームで収集する情報と、プログラム編成における発表分野の区分について審議・決定した。発表分野の区分は下記の方針で行うこととした。

一般講演、発表賞応募演題ともに、発表内容に関わりが深い分野/環境として下記

①②の情報を収集する。あえて発表希望分野/環境としないことにより、一般講演におけるプログラム編成の自由度を確保する。また発表賞審査においては、研究分野の偏り（例年、生物分野の発表が多い）による審査への影響を軽減する試みとして、幅広い分野の研究者による評価となることを明示した上で、審査希望分野を設けない。

①分野：生物、物理、化学、地学（複数選択可）

②環境：湖沼、河川、地下水、湿地、汽水、沿岸、その他（自由記述）（複数選択可）

b. 各種発表賞の担当者を決定した。

(2) 第2回企画委員会（2024年8月29日17:30-18:20、オンライン）

出席者：石井、朴、岡崎、井上、霜鳥、竹中、内井（以上、企画委員）

川越、伊藤（以上、熊本大会実行委員）

a. 企画講演、一般講演、ポスター発表、小中高生ポスター発表の演題すべてが揃った後、プログラム編成について再度打ち合わせを行い、会場と日時の割り振りを行った。

b. 各種発表賞間での審査員の調整を行った。また審査方法について各発表賞担当者から報告があった。特に小中高生ポスター賞は、総会・授賞式で表彰されるので、当日の受賞者への連絡法と賞状印刷の流れを確認した。

3. 第88回熊本大会準備について

熊本大会実行委員との協力のもと、下記(1)～(5)を実施した。

- (1) 申し込みフォーム (google form) の作成
- (2) 大会プログラムの編成
- (3) 口頭発表賞、ポスター発表賞、小中高生ポスターの審査員の選定
- (4) 口頭発表の座長の選定
- (5) (予定) 各種発表賞審査の集計と受賞者の決定

令和6年和文誌編集委員会 総会資料

編集委員長 植田真司
編集幹事 管原庄吾

1. 報告事項

1) 論文賞

著者：引野愛子，加藤季晋，管原庄吾，林昌平，大谷修司，千賀有希子，神門利之，江川美千子，朴紫暎，田中秀和，清家泰

題名：ダム湖表水層におけるヒドロキシルアミンの生成起源

発表年：2022年

雑誌：83巻2号 pp. 131-140

カテゴリ：原著

【選考経緯】

- ・陸水学雑誌に掲載された以下の原著，総説，短報，資料を選考対象とした。
対象論文：83号（2022年）9報
84号（2023年）10報
- ・編集委員会委員12名を選考委員とし，選考委員がオリジナリティー，インパクト，完成度，総合評価点の観点から講評を行った。
- ・集計の結果，最高点が得られた論文を2024年陸水学雑誌論文賞の受賞候補論文として，上記論文を推薦し，評議員会で承認された。

【理由】

本稿は，ダム湖におけるシアノバクテリアによる NH_2OH 生成機構を解明した内容を含む原著論文である。著者らは，島根県の布部ダムを対象に，夏季の有光層で上昇する NH_2OH がシアノバクテリアによって生成しているのではないかとの仮説を立て，野外観測及び室内実験の両面から検証を行い，また研究室で開発してきた精度の高い分析方法により，実態解明を進めた。本稿の，夏季における有光層で検出された NH_2OH がシアノバクテリアに起因することを実証した結論は，ダムや湖沼の窒素循環研究において重要な知見を提供しており高く評価でき，陸水学への大いに貢献した成果と言える。また，本稿の知見はシアノバクテリアによる NH_2OH 生成機構をはじめ，今後のダムや湖沼の窒素循環研究において重要な役割を果たすことが期待される。

以上，和文誌編集委員会では本稿を論文賞の対象論文として推薦することとした。

2) 発行状況

2024年

85巻1号 原著3, 短報1, 資料1, 雑報1, 雑報2, 書評1, 学会記事
2号 原著1, 資料2, 雑報1
3号 原著1, 資料1, 書評1

2024年投稿数 9報

参考：過去4年投稿数

2023年(15報), 2022年(11報), 2021年(19報), 2020年(11報)

3) 次期編集委員長及び編集幹事について

和文誌編集委員会では、次期編集委員長及び編集幹事について、以下の両名を推薦する。

和文誌編集委員長：吉村真由美（森林総合研究所）

編集幹事：井上栄壮（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

4) 学会記事のJ-STAGE掲載について

現在、J-STAGEには、原著、短報、総説、資料のカテゴリが掲載されている。これに加えて、学会記事（雑報、討論、報告等）に関しても掲載できるようにしたい。

英文誌編集委員会 評議員会・総会資料

2024年10月18日

編集委員長 奥田 昇

編集幹事 石川俊之

報告事項

1. 編集委員長・編集幹事の交代

現編集委員長・編集幹事の任期満了に伴い、2025年1月から編集委員長に土居秀幸氏（京都大学）、編集幹事に伊藤雅之氏（京都大学）の就任が評議員会で承認された。

2. Excellent Paper Awardの選考（資料1）

3. Springer Publisher's Report 2024 August（別添資料「110201_LIMN_GPU-72_Report20240816.pdf」）

① インパクトファクター: 2023年 1.4（2022年 1.6）, 陸水関連雑誌20誌中14位（前年度14位）（参照: Limnology - Publisher's Report p30, 31, 35）

② 2024年出版・投稿状況: 2024年1月～8月31日までの投稿数 67（2023年同時期まで59件, 2024年投稿のうち再投稿: 3件, 現在までの受理原稿 22）

（投稿数実績: 2020年 138件, 2021年 155件, 2022年 110件, 2023年 92件（参照: Limnology - Publisher's Report p7）

4. 投稿規定の微小改訂（資料2, 3, 4）

5. 生成AIに対する編集方針の検討（資料5）

6. 2024年4月号への査読者謝辞の掲載

7. Springer Natureとの出版契約に関する事前協議（無償出版契約継続の基本合意）

今後の予定

1. 次年度号の表紙写真の選定（Excellent Paper Award受賞者の提供写真より）

2. 編集委員の交代（特に、応用・技術系分野への拡張）

3. 投稿規定の改定

・Limnologyの目的とスコープの更新

・生成AI使用に関する編集方針

4. 特集号・招待総説の企画募集

5. 出版契約の更新

日本陸水学会
会長 占部 城太郎 様

2024 年度日本陸水学会論文賞 (Limnology Excellent Paper Award) について、前年度および前々年度に Limnology 誌に掲載された選考対象論文を厳正に審査した結果、受賞候補論文として下記論文を推薦いたします。つきましては、推薦論文、推薦理由および審査の経緯についてご確認いただき、評議員会にて審議いただきますようお願い申し上げます。

令和 6 年 7 月 9 日
2024 年 Limnology Excellent Paper Award 選考委員会
委員長 奥田 昇

記

【推薦論文】

著 者：Masaki Takenaka, Koki Yano, Tomoya Suzuki & Koji Tojo
題 名：Development of novel PCR primer sets for DNA barcoding of aquatic insects, and the discovery of some cryptic species
発表年：2023
雑 誌：Limnology 24(2): 121-136

【推薦理由】

本論文は、水生昆虫の DNA バーコーディングに有効な新規のユニバーサル PCR プライマーの開発を報告したものである。本プライマーセットの適用範囲は、水生昆虫の多様な分類群を幅広くカバーする。特筆すべきは、mtDNA 16S rRNA および 12S rRNA 領域の長断片を増幅するプライマーセットを用いて、キイロヒラタカゲロウ *Epeorus aesculus* の隠蔽種または未記載種の存在を発見したことである。これらのプライマーセットは、水生昆虫類の分子系統解析の精度向上に資する。

さらに、本プライマーは、環境 DNA 手法への応用が可能である。現在、陸水生態系の生物多様性に関する調査は、水生昆虫類の種同定がボトルネックとなっている。本プライマーを用いた環境 DNA 手法が開発されれば、河川や湖沼の生物多様性研究が大きく進展すると期待される。論文発行後 1 年で 1800 余のアクセス数を記録したことから、その注目度の高さが伺える。また、論文としての完成度も高く評価された。

以上の理由により、本論文を Limnology Excellent Paper Award に推薦することとした。

【審査の経緯】

- 過去2年度（2022年1月号～2023年8月号）にLimnologyに掲載された全論文を選考対象とした（ただし、昨年度の受賞論文を除く）。一次選考として、選考対象論文57編の中から、英文誌編集委員会およびゲスト編集委員の投票により11編を推薦した。選考委員会の内規に従い、英文誌編集委員長の奥田昇が選考委員長を務めた。候補論文の専門性を考慮の上、候補論文の著者に含まれず利益相反のない選考委員5名（石川俊之、伴修平、板井啓明、小松一弘、廣田充）を英文誌編集委員会から選出した。
- 二次選考では、論文のオリジナリティ（独創性や新規性）、インパクト（研究の重要性や波及効果）、完成度（論文の緻密性や解析等の確からしさ）などを考慮の上、各委員が上位1位から3位の論文に評点を付した。
- 6月25日にオンラインによる選考委員会を開催し、各委員による推薦論文の講評を踏まえつつ、委員からの評点合計が上位の論文について論文賞の妥当性を審査した。熟議の結果、最高評点を得た論文1報が論文賞に相応しいとの結論に至った。
- 以上より、上記論文を2024年度日本陸水学会論文賞の受賞候補論文として推薦することとした。

以上

1) Equations in Text

Current version

- Equations

Please use the standard mathematical notation for formulae, symbols, etc.:

- Italic for single letters that denote mathematical constants, variables, and unknown quantities

Revised version

- Equations **and statistics**

Please use the standard mathematical notation for formulae, symbols, etc.:

- Italic for single letters that denote ~~mathematical~~ constants, variables, and unknown quantities **in mathematics and statistics**

2) DOI

Current version

- Article by DOI

Sudo M, Okubo T, Kaneki R (2005) Paddy herbicide inputs in the entire river inflow reaching Lake Biwa, Japan. *Limnology* 6:91–99. doi:

10.1007/s102010050145-x

- A paper published online but not yet in print can be cited using the DOI.

Revised version

- Article by DOI

Sudo M, Okubo T, Kaneki R (2005) Paddy herbicide inputs in the entire river inflow reaching Lake Biwa, Japan. *Limnology* 6:91–99. doi:

10.1007/s102010050145-x

- DOI should be put on all articles in References whenever it is available.

3) References

Current version

- Citation in text

Cite references in the text by name and year in parentheses. Some examples:

-This effect has been widely studied (Abbott 1991; Barakat et al. 1995; Kelso and Smith 1998; Medvec et al. 1993).

- List style

Reference list entries should be alphabetized by the last names of the first author of each work.

Revised version

- Citation in text

Cite references in the text by name and year in parentheses. **In a case in which there are multiple works with the same first author and publication year, give them alphabet a-z after the publication year in order of appearance in the citation.** Some examples:

- This effect has been widely studied (Abbott 1991; Barakat et al. 1995; Kelso and Smith 1998; Medvec et al. 1993a).

- **This hypothesis was supported (Medvec et al. 1993b).**

- List style

Reference list entries should be alphabetized by the last names of the first author of each work. **The list should be arranged in order of appearance in the citation in the case in which there are multiple works with the same first author and publication year.**

Updated on December 6, 2023

Text Formatting

- SI units, numbers

The International System of Units (SI) should be used, but Celsius (°C) is recommended for temperature.

For all of SI units, excepting degree (°), minute (′) and second (″) for plane angle, space should be left between the numerical value and the unit symbol, according to The International Bureau of Weights and Measures (BIPM) for expressing the SI units (link to '<https://www.bipm.org/en/publications/si-brochure>').

近日、更新予定

Manuscript submission

以下の文章を追加

- In a revised manuscript, the track changes should be deleted [removed] but the changes should be highlighted in the text.
- Please refrain from submitting the previous version of the manuscript unless no changes are necessary.

近日、更新予定

5. 生成 AI に対する編集方針の検討

生成 AI の使用に関する編集方針を *Limnology* の投稿規定に掲載することが承認された

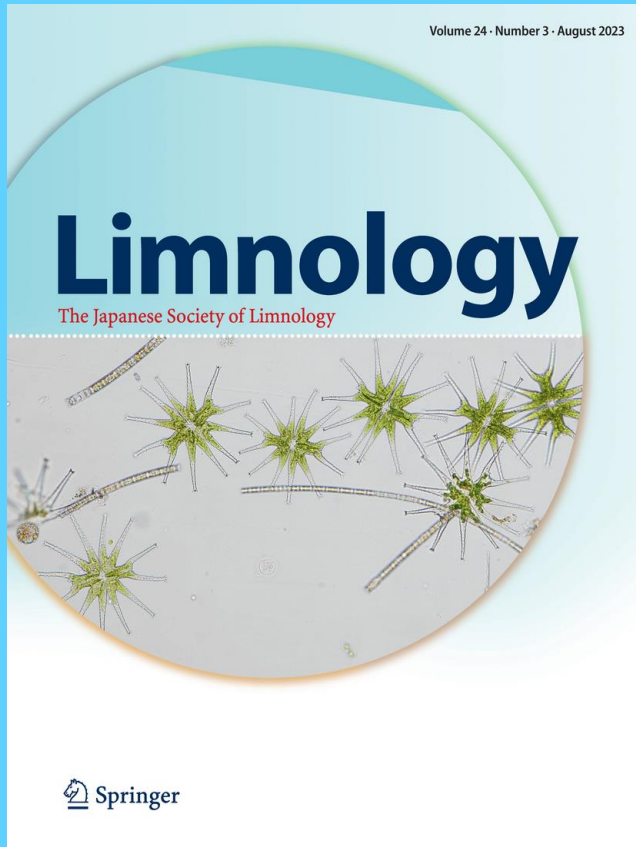
同じ出版社の雑誌における生成 AI の編集方針は大枠で共通するため、Springer の Editorial Policy をひな型に作成するのが基本方針

<https://www.springer.com/gp/editorial-policies/artificial-intelligence--ai-/25428500>

掲載すべき主な項目

- ・大規模言語モデル (LLMs: Large Language Models) は、著者資格の基準を満たさない
- ・生成 AI を使用する場合は、方法または別章で宣言する必要がある (ただし、人間が作成した文章の読み易さや文法・フォーマットを改善することを目的とした生成 AI 支援コピーエディティングは、宣言する必要がない)
- ・コンテンツを自律的に創作し、生成的に編集する機能の使用は認めない
- ・AI 生成画像・映像の使用は認めない (ただし、法的ルールに則って生成された画像・映像の契約関係を有する団体から得たものは除外)
- ・非生成機械学習の使用など注釈付きで認められる場合もあり、ケースバイケースで判断
- ・査読者は査読原稿を生成 AI ツールにアップロードしてはいけない (デリケートで独自性の高い情報の学習を避けるため)
- ・原稿の評価の一部が AI ツールによって支援される何らかの方法を用いてなされた場合は、査読者に対して査読報告書で使用の透明性について宣言を要求する

* Nature や Nature Communications では、Springer の編集方針をそのまま掲載



<https://link.springer.com/journal/10201>

Publisher's Report

The Japanese Society of Limnology
August 2024

CONFIDENTIAL

About this journal

Limnology publishes original scientific contributions in the fields of physical, chemical, biological, and related research, including environmental issues.

Covers all aspect of basic, theoretical, and applied limnology.

Provides a platform for scientific and technical papers.

Welcomes reports on unique phenomena from lesser-known study systems worldwide, as well as long-term and/or broader spatial scale data presentations.

Publishes Rapid Communications, Research Papers, Review Articles, Research Reports, and Comments.

Editorial Board

Editor-in-Chief

Noboru OKUDA, PhD, Kobe University, Japan

Managing Editor

Toshiyuki ISHIKAWA, PhD, Shiga University, Japan

Associate Editors

Syuhei Ban, PhD, The University of Shiga Prefecture, Japan

Simon BELLE, PhD, Swedish University of Agricultural Sciences, Sweden

Camilla CAPELLI, PhD, University of Applied Sciences and Arts of Southern Switzerland, Switzerland

Kwang-Hyeon CHANG, PhD, Kyung Hee University, Republic of Korea

Maria DITTRICH, PhD, University of Toronto, Canada

Hideyuki DOI, PhD, Kyoto University, Japan

Derek GRAY, PhD, Wilfrid Laurier University, Canada

Mitsuru HIROTA, PhD, University of Tsukuba, Japan

Jun'ichiro IDE, PhD, Chitose Institute of Science and Technology, Japan

Makoto ISHIMOTA, PhD, The Institute of Environmental Toxicology, Japan

Nobuo ISHIYAMA, PhD, Hokkaido Research Organization, Japan

Takaaki ITAI, PhD, University of Tokyo, Japan

Toshiaki JO, PhD, Ryukoku University, Japan

Takashi KAGAYA, PhD, The University of Tokyo, Japan

Takafumi KATAOKA, PhD, Fukui Prefectural University, Japan

Yukihiro KOHMATSU, PhD, Ryukoku University, Japan

Kazuhiro KOMATSU, PhD, Shinshu University, Japan

Masami KOSHIKAWA, PhD, National Institute for Environmental Studies, Japan

Nagamitsu MAIE, PhD, Kitasato University, Japan

Editorial Board

Atsushi MARUYAMA, PhD, Ryukoku University, Japan

Toshifumi MINAMOTO, PhD, Kobe University, Japan

Indranil MUKHERJEE, PhD, Biology Centre (CAS), Czech Republic

Fumiyuki NAKAJIMA, PhD, The University of Tokyo, Japan

Ulrike OBERTEGGER, PhD, Fondazione Edmund Mach, Italy

Giyong OCK, PhD, National Institute of Ecology, Republic of Korea

Kunihiro OKANO, PhD, Akita Prefectural University, Japan

Ken'ichi OSAKA, PhD, The University of Shiga Prefecture, Japan

Danielle K. PETSCH, PhD, São Paulo State University (Unesp), Brazil

Renata RUARO, PhD, Federal University of Technology - Parana, Brazil

Masaru SAKAI, PhD, National Institute for Environmental Studies, Japan

Masaki SAKAMOTO, PhD, Toyama Prefectural University, Japan

Janice B. SEVILLA-NASTOR, PhD, University of the Philippines Los Baños, Philippines

Ryuichiro SHINOHARA, PhD, National Institute for Environmental Studies, Japan

Ryo SHOJI, PhD, National Institute of Technology, Tokyo College, Japan

Yuko SUGIYAMA, PhD, Okayama University of Science, Japan

Yuuhiko TANABE, PhD, National Institute for Environmental Studies, Japan

Amit TANDON, PhD, University of Massachusetts Dartmouth, USA

Shoji D THOTTATHIL, PhD, SRM University-AP, Amaravati, India

Monica TOLOTTI, PhD, Fondazione Edmund Mach, Italy

Alan M. TONIN, PhD, Federal University of Mato Grosso do Sul, Brazil

Misako URABE, PhD, The University of Shiga Prefecture, Japan

Natsuru YASUNO, PhD, Center for Environmental Science in Saitama, Japan

Haw YEN, PhD, Auburn University, USA

Editorial Board

Mingbo YIN, PhD, Fudan University, China

Copy Editor

Takehiko FUKUSHIMA, PhD, Tsukuba University
(as an emeritus professor), Japan

Editorial Advisors

Ichiro TAYASU, PhD, Research Institute for
Humanity and Nature, Japan

Kohei YOSHIYAMA, PhD, The University of Shiga
Prefecture, Japan

Journal Metrics

2023 SPEED



Submission to first decision (average)
56.6 days



Submission to first decision (median)
22 days



Acceptance to publication (median)
29 days

2023 USAGE



Downloads
76,591

IMPACT



Impact factor
1.4 (2023)

5 year Impact factor
1.7 (2023)



CiteScore
4.3 (2023)



Source normalized impact per paper
0.905 (2023)



h5 Index
16 (2022)



Editorial Development

1

1 Editorial Development

The table below summarizes the activity for the journal between January 1st and December 31st of each year. Only “Original Submissions” have been considered. Only submissions handled at Springer Nature in SNAPP (Springer Nature Article Processing Platform), EM (Editorial Manager), or eJP (eJournalPress) are included. During the peer review process, submitted manuscripts go through one or more revision stages leading up to acceptance or rejection.

1.1 Editorial Status Summary

	YEAR	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	TOTAL
Submitted														
Total Submitted	2022	16	10	10	12	8	12	11	5	10	4	8	4	110
	2023	9	3	9	7	8	8	8	7	10	4	12	7	92
	2024	8	13	9	3	6	10	9						58
Decided														
Accepted	2022	0	0	0	1	1	2	1	1	2	2	2	4	16
	2023	1	0	5	2	1	4	0	2	3	3	0	5	26
	2024	2	2	4	2	2	5	1						18
Rejected	2022	7	12	7	6	8	9	11	4	6	7	0	1	78
	2023	5	4	3	1	6	10	6	2	2	3	4	1	47
	2024	3	5	2	4	4	5	4						27
Withdrawn	2022	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3
	2023	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1	1	8
	2024	0	1	0	0	0	0	0						1

(Source: Editorial Manager, as of 30 Jul, 2024)

1 Editorial Development

The acceptance rate, rejection rate, and withdrawal rate are calculated as the number of accepted, rejected, or withdrawn manuscripts in a year compared to the total number of submissions for which a decision was made in the same year. For these calculations only research/original articles are considered.

The submission to first decision metric is calculated as the average or median number of days between the submission date of a manuscript and the date it was either rejected or sent out for review.

The submission to accept and submission to reject metrics are calculated as the average or median number of days between the submission date of a manuscript and the date it was accepted or rejected.

1.2 Editorial Status Summary

	2022	2023	2024 - July
Acceptance Rate	16.3%	30.6%	38.3%
Rejection Rate	79.6%	55.3%	57.4%
Withdrawal Rate	3.1%	9.4%	2.1%
Turnaround Times			
Submission to First Decision (Average in days)	35.5	56.6	10.9
Submission to First Decision (Median in days)	30	22	6
Submission to Accept (Average in days)	292	339.9	298.8
Submission to Accept (Median in days)	291.5	317	297.5
Submission to Reject (Average in days)			
Submission to Reject (Median in days)			

(Source: Editorial Manager, as of 30 Jul, 2024)

1 Editorial Development

1.3 Author Region of Origin of Manuscripts Submitted and Accepted

Region	Number of Manuscripts Submitted				Number of Manuscripts Accepted*			
	2021	2022	2023	2024 - July	2021	2022	2023	2024 - July
Japan	35	25	25	17	17	9	13	7
Brazil	19	12	18	6	10	4	4	2
Finland		2		1			2	
China	16	10	4	3	1		1	
Poland	2	2					1	
Algeria	1	2		1			1	
Slovakia	1	1		1			1	
Argentina	1	4	3		2	1	1	1
United States of America	3	1			2		1	
Hungary		1					1	
Malawi	2	1						
Guadeloupe								
Iran	11	4	3	1				2
Iraq	1	1						
Chile	2	1	1	1				
Egypt	2	1	1					
Ghana								

*sorted by "number of manuscripts accepted 2023" from large to small

Region	Number of Manuscripts Submitted				Number of Manuscripts Accepted*			
	2021	2022	2023	2024 - July	2021	2022	2023	2024 - July
India	24	18	13	11	4			2
Italy	1				1			
Nepal	2							
Spain	1	1	1	1		1		1
Greece	2		1					1
Israel	1		1					1
Mexico	3			1	4			
Russia	3	3	2	4	2			1
Turkey	3	5	3	1				
Nigeria	2	2	1	2				
Vietnam	3			1	1			
Ethiopia	2							
Malaysia	1							
Pakistan	2		3					
Portugal					1			
Thailand	1	1	1					
Australia	2	1		1		1		

(Source: Editorial Manager, as of 30 Jul, 2024)

1 Editorial Development

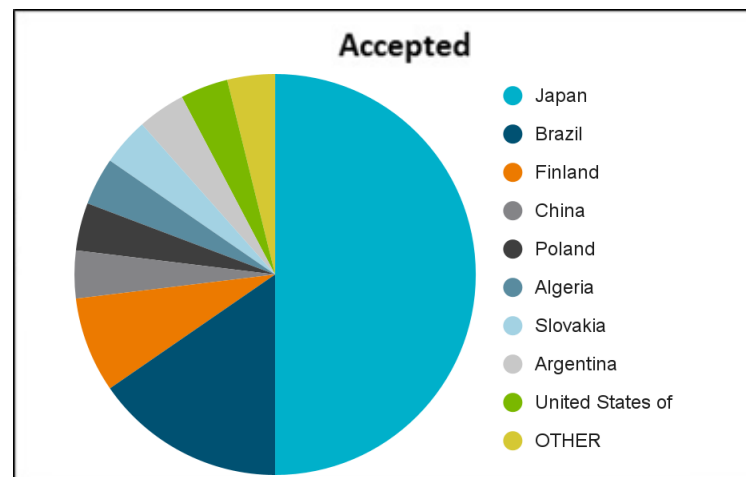
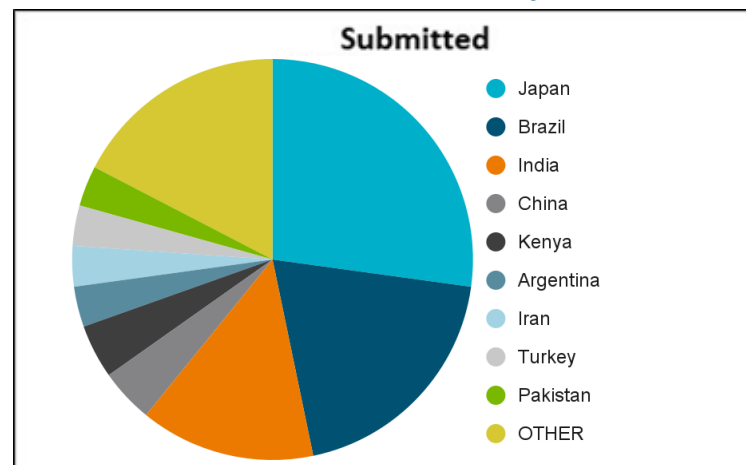
1.3 Author Region of Origin of Manuscripts Submitted and Accepted

Region	Number of Manuscripts Submitted				Number of Manuscripts Accepted*			
	2021	2022	2023	2024 - July	2021	2022	2023	2024 - July
Indonesia	1	1	1	1				
Sri Lanka		1						
Bangladesh	1							
Kazakhstan	1		2					
Philippines			2		1			
South Korea	1							
Saudi Arabia	1			1				
Czech Republic	1	2		1				
Armenia		1						
Belgium		1						
Morocco		1						
Colombia		3						
South Africa		1						
Kenya			4					
France			1					
OTHER REGIONS			2	2				
Total	155	110	92	58	46	16	26	18

Disclaimer: Please note that the number of manuscripts submitted and the number of manuscripts accepted is a summary of activities between January 1st and December 31st of each year. A manuscript may have been submitted in a certain year, but not accepted in that same year, e.g. is still in process.

*sorted by "number of manuscripts accepted 2023" from large to small

Top 10 countries submissions / acceptances 2023



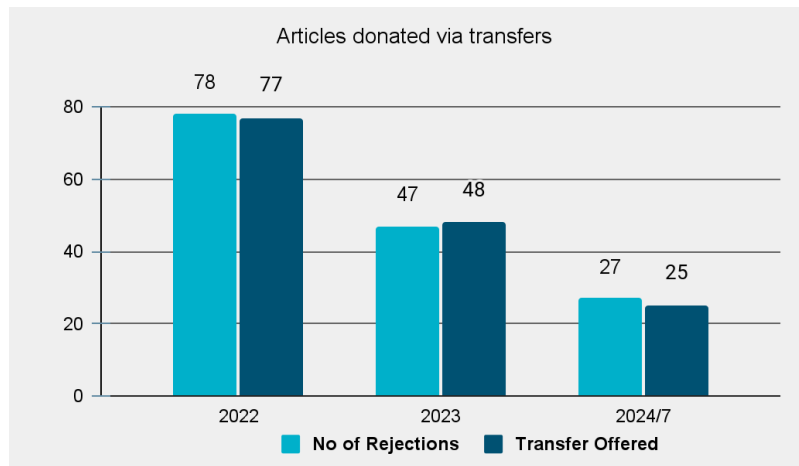
1 Editorial Development

1.4 Manuscript transfers

How does the manuscript transfer service benefit the scientific community?

Authors benefit from a convenient way to resubmit their manuscript to a suitable journal, while editors can expand their journal's service by offering a friendly alternative to rejection without any additional work. Receiving transfers from other journals will give you access to interesting new submissions for your journal. The entire publication process can be faster if review reports are included in the transfer, reducing the workload for the reviewer community. Find more details at <https://www.springernature.com/gp/authors/transferdesk>.

Number of transfer offers made by *Limnology*.



Overview of Transfers offered, received and accepted

	2022	2023	2024 - July
Articles donated			
Number of Rejections*	78	47	27
Transfer Offered	77	48	25
Articles received			
Transfers Received	8	6	2
Transfers Accepted	2	2	3



***Disclaimers:** Rejection date based on final decision date as this is the point in time where the author is informed about the rejection and a transfer offer is possible. For Transfers this is seen as the starting point of the process.

1 Editorial Development

1.5 Manuscript Tracker

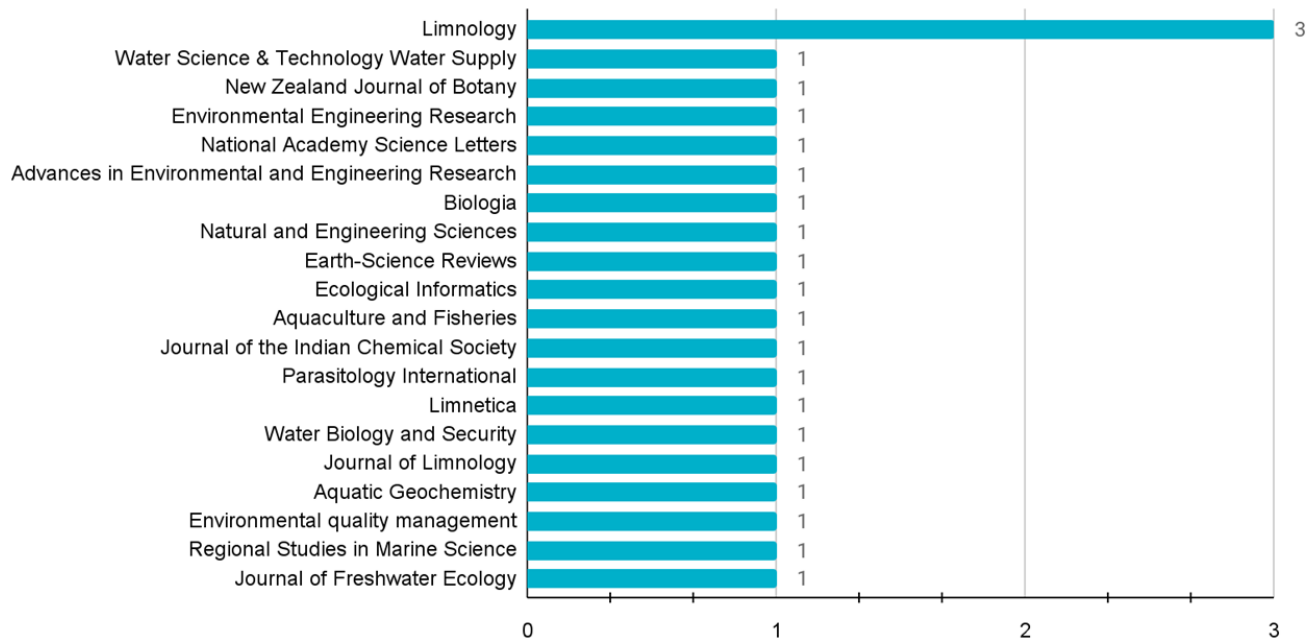
Where were manuscripts rejected by [Limnology] in 2022 and current date... eventually published?

manuscripts rejected by [Limnology] in 2022 & 2023		were published in Springer Nature journals	were published with other publishers
78	47	10	21

Disclaimer: We use our manuscript tracking tool to analyse where manuscripts that are rejected by our journals are eventually published.

“Found” means the manuscript could be found as published by a Springer Nature journal or elsewhere. Our tracking tool is designed to return positive results with a high degree of confidence (i.e. low false positives) but some published manuscripts might have been missed (false negatives).

“Not found” means the manuscripts could not be found as published. Maybe it has not been resubmitted, it could be submitted and still in a publishers workflow or the title and authors have changed significantly.



Run Date: 09 Aug 2024

1 Editorial Development

1.6 Publication Ethics and Research Integrity

Journal Editors, in cooperation with Editorial Board members and reviewers, safeguard the quality and integrity of journal content. The [Springer Nature Code of Conduct](#) and the [Committee on Publication Ethics \(COPE\)](#) describe Editors' responsibilities.

Springer Nature supports Editors in preventing and addressing ethics issues and research misconduct. Services include plagiarism-detection software, [e-learning courses for Editors](#), and a specialist advisory team: [the Springer Nature Research Integrity Group](#).

Plagiarism, authorship disputes, data fabrication and peer-review manipulation are the most-common issues. Editors who would like assistance resolving such issues should contact their Publishing Editor in the first instance. The Publishing Editor can consult the Research Integrity Group for complex cases.

Springer Nature continuously updates editorial policies in response to emerging issues. Recent policy developments (implemented according to individual journal scope and partner approval) address citation manipulation, diversity of Editorial Boards, sex and gender in research, preprint sharing, data availability statements, and submissions of high concern.

Limnology

- is a member of COPE
- is using plagiarism-detection software



Papers retracted in year: 0



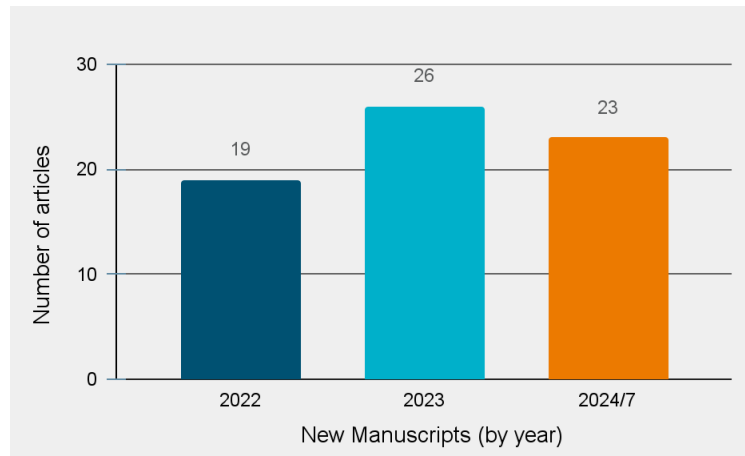
Production

2

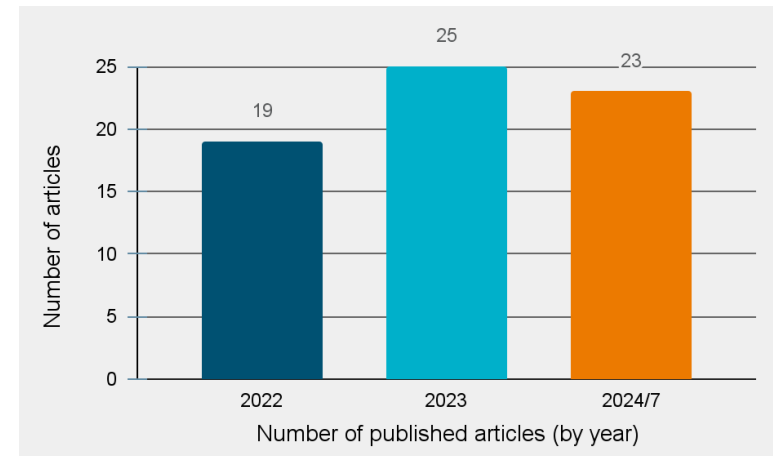
2 Production

2.1 Production Volume

Manuscripts Accepted for Publication



Number of Published Articles



This table provides an overview of the number of manuscripts accepted for publication by the Editor-in-Chief and received by Springer Nature Production.

Published Online means that articles are:

- **Published electronically in the journal:** These are final articles published online after an author has reviewed proofs and all corrections have been carried out. Metadata is sent to all relevant bibliographic services for inclusion in abstracting and indexing databases immediately after online publication.
- **Fully citable by their DOI (Digital Object Identifier):** Articles are in citable form 2-3 weeks after acceptance, before distribution of the journal's print edition (if any). The official publication date is the online publication date, which is stated online and in any printed version.
- **Published also in PDF format:** For publication of the printed version, only the final pagination and the citation line are added.
- **Published as Online First articles:** where journals are issue based (i.e. do not use continuous articles publishing) and accepted articles have to wait for allocation to an issue. Online First enables earlier usage and citations.

2 Production

2.2 Production Volume

Issue	2023			2024		
	publication date	articles per issue	pages per issue	publication date	articles per issue	pages per issue
Issue 1	09-01-2023	6	70	08-01-2024	11	118
Issue 2	16-03-2023	6	80	25-03-2024	9	102
Issue 3	17-07-2023	9	100	25-07-2024	12	124
Total		21	250		32	344

2 Production

2.3 ORCID

ORCID

ORCID stands for Open Researcher and Contributor ID and is a non-profit organization supported by a global community of members, including research organizations, publishers, funders and other stakeholders in the research ecosystem. Springer Nature has worked with this community from its beginning and integrated the ID into systems and workflows.

Authors and peer reviewers are increasingly using ORCID to make sure that their works are uniquely linked to their name. Problems such as several researchers sharing the same name are solved by this unique, persistent and global ID. It is free and simple to get by registering at orcid.org/register. Researchers can then build their profile pages including their publication and peer reviewer activity. Springer Nature authors and peer reviewers can obtain an ID during the submission process in Editorial Manager. Upon publication, the ID can be found in the article on SpringerLink and in the PDF file. The ID is part of the metadata, which supports Crossref Auto-Update service: if the authors agree, their newly published articles are automatically listed in their ORCID record. Peer reviewers are offered an option to have their verified peer review activity directly transmitted to ORCID during submission. These services offer our researchers an opportunity to link their work with their individual unique identifier.

2022		2023		2024 - July	
Authors with ORCID	Corresponding Authors with ORCID	Authors with ORCID	Corresponding Authors with ORCID	Authors with ORCID	Corresponding Authors with ORCID
24	17	41	24	30	21



Circulation

3

3 Circulation

3.1 Online Deals

Region	2021		2022		2023	
	Number of Deals	Institutions with exposure via online deals	Number of Deals	Institutions with exposure via online deals	Number of Deals	Institutions with exposure via online deals
Americas	42	1,330	16	1,093		
Asia Pacific	39	910	29	701		
EMEA*	52	4,613	26	3,667		
Grand Total **	133	6,853	71	5,461	0	0

Not Yet Available

The type of deal, as well as the type and number of “members” or “sites” participating in these deals, varies greatly. Also the way in which these members and sites are administrated in our contracts can vary considerably. For example in a consortium deal we count institutions as “members”, which in themselves may represent many locations/schools/libraries. Therefore the numbers given in the tables in this section should be viewed as an indication of distribution of the title through online deals.

The figures provided under “Institutions with exposure via online deals” refer to institutions that have exposure to the journal as part of an online deal with Springer (consortia, multi-site licenses, and site licenses). This does not mean that these institutions had fully paid institutional subscriptions and/or are paying the equivalent of the list price to obtain access to the journal under an online deal arrangement.

*EMEA = Europe, Middle East and Africa

**The Research4Life online access data are not included in the above table (see Appendix for more information)

Run Date: 09 Aug 2024

3.2 TA Agreements/Compact Deals

Region	2022		2023	
	Number of Deals	Institutions with exposure via TA Agreements	Number of Deals	Institutions with exposure via TA Agreements
Americas	9	157	9	155
Asia Pacific	3	111	4	98
EMEA*	21	2,572	21	2,698
Grand Total **	33	2,840	34	2,951

Transformative Agreements:

<https://www.springernature.com/gp/open-research/oa-agreements>

Our Transformative Agreements enable participating institutions to combine journal subscription access along with OA publication costs (APCs).

In addition to managing the cost and administration of OA, Transformative Agreements offer authors an easy way to comply with funders’ OA requirements.

If your institution has a Transformative Agreement, you may publish your article OA with your fees covered, in Springer Nature journals that are included in the agreement.

3 Circulation

The way in which scientific journals are purchased has changed significantly over the past few years. The traditional business model, in which journals (print publications) are subscribed to, is being increasingly replaced by individually negotiated agreements for online access, including consortia, multi-site licenses, and site licenses, all referred to as “online deals”.

For established journals we see a growing conversion from discrete* subscriptions to inclusion in online deals.

For newer journals subscription growth will be mostly the result of such online deals. Institutions buy fewer print subscriptions and license more and more content electronically. Overall, this will lead to wider exposure, as well as visibility and usage, of *Limnology*.

*Discrete subscriptions are subscriptions individually subscribed to at list price via our customer service centers.

3.3 Institutional Subscriptions

Region	Subscription Type				Total 2023
	E-Only	Print plus free eAccess (current year)	Enhanced	Deeply Discounted Price (DDP)	
Americas					0
Asia Pacific	2	1			3
EMEA*				1	1
Grand Total	2	1	0	1	4

*EMEA = Europe, Middle East and Africa

Run Date: 09 Aug 2024

Springer offers three types of subscription models, which are clearly communicated to the market via the Springer pricelist published in August of the year preceding the subscription year concerned:

- **E-only:** Subscribers purchase electronic journal current articles at list price and receive free access to Contemporary Articles (1997 – current)
- **Print Plus Free Electronic:** Subscribers that purchase current print journals at list price are offered free electronic access to Current Articles
- **Enhanced:** Subscribers purchase current print journals at list price plus 20% and receive free access to Contemporary Articles (1997 – current)
- In addition **special online deals** can be negotiated, which may be electronic-only or print and electronic. In cases of electronic-only, the contract party may choose to also subscribe to selected titles in print against Deeply Discounted Prices (**DDP**).



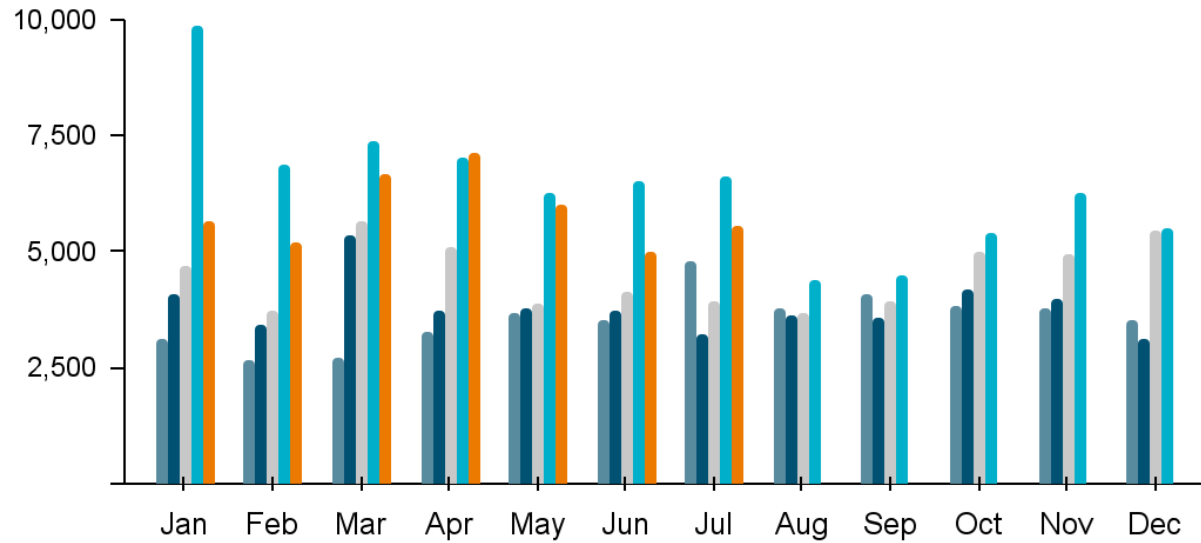
Usage

4

4 Usage

4.1 Successful Full-Text Article Requests

Full-Text Article Requests 2020 – 2024(YTD)



Totals	
2020	42,875
2021	45,850
2022	54,167
2023	76,591
2024 (YTD)	41,285

2020	3,108	2,682	2,693	3,297	3,676	3,550	4,812	3,793	4,107	3,851	3,772	3,534
2021	4,101	3,434	5,378	3,725	3,777	3,754	3,232	3,606	3,554	4,190	3,986	3,113
2022	4,701	3,708	5,669	5,085	3,902	4,160	3,919	3,696	3,910	4,987	4,951	5,479
2023	9,891	6,866	7,358	7,016	6,269	6,504	6,644	4,404	4,468	5,379	6,283	5,509
2024 (YTD)	5,680	5,186	6,663	7,153	6,032	5,021	5,550					

Source: COUNTER usage data on Google BigQuery. Downloads from SpringerLink, Nature.com and BMC Platform .

4 Usage

4.2 Top 10 Full-Text Article Requests in 2023

Title	Author	Article Types	Article Grant Type	Volume	Issue	Year*	Article Requests 2023
A simple method for preserving environmental DNA in water samples at ambient temperature by addition of cationic surfactant	Hiroki Yamanaka et al.	Research Paper	Open Choice	18	2	2017	6,181
Impacts of a floating photovoltaic system on temperature and water quality in a shallow tropical reservoir	Peipei Yang, Lloyd H. C. Chua, Kim N. Irvine, Manh Tuan Nguyen, E.-Wen Low	Research Paper	Open Choice	23	3	2022	3,563
Surveillance of fish species composition using environmental DNA	Toshifumi Minamoto et al.	Note	Open Choice	13	2	2012	1,658
Development of novel PCR primer sets for DNA barcoding of aquatic insects, and the discovery of some cryptic species	Masaki Takenaka, Koki Yano, Tomoya Suzuki, Koji Tojo	Research Paper	Subscription	24	2	2023	1,568
Vertical mixing and oxygen flux caused by daily sea breezes in a shallow stratified lake	Eiji Masunaga, Sachihiko Itoh, Tatsumi Kitamura	Research Paper	Open Choice	24	2	2023	1,552
Spatial distribution and stable isotopic composition of invertebrates uncover differences between habitats on the glacier surface in the Alps	Tereza Novotná Jaroměřská et al.	BRIEF COMMUNICATION	Open Choice	24	2	2023	1,499

* Year = Pricelist Year.

Source: COUNTER usage data on Google BigQuery. Downloads from SpringerLink, Nature.com and BMC Platform.

4 Usage

4.2 Top 10 Full-Text Article Requests in 2023 (cont.)

Title	Author	Article Types	Article Grant Type	Volume	Issue	Year*	Article Requests 2023
Can botanic gardens serve as refuges for taxonomic and functional diversity of Odonata? The case of the botanic garden of Castilla–La Mancha (Spain)	Manuel Pinilla-Rosa et al.	Research Paper	Free Access	24	1	2023	1,474
Phosphorus release during decomposition of the submerged macrophyte <i>Potamogeton crispus</i>	Lizhi Wang, Qianjin Liu, Changwei Hu, Renjun Liang, Jikai Qiu, Yun Wang	Asia/Oceania report	Open Choice	19	3	2018	1,371
Discovery of the freshwater sponge genus <i>Corvospongilla</i> Annandale (Porifera: Spongillida) in Australia with the description of a new species and phylogeographic implications	Renata Manconi et al.	Research Paper	Open Choice	23	1	2022	1,211
Characterization of phosphorus in algae from a eutrophic lake by solution ³¹ P nuclear magnetic resonance spectroscopy	Weiyang Feng et al.	Research Paper	Open Choice	20	2	2019	1,150

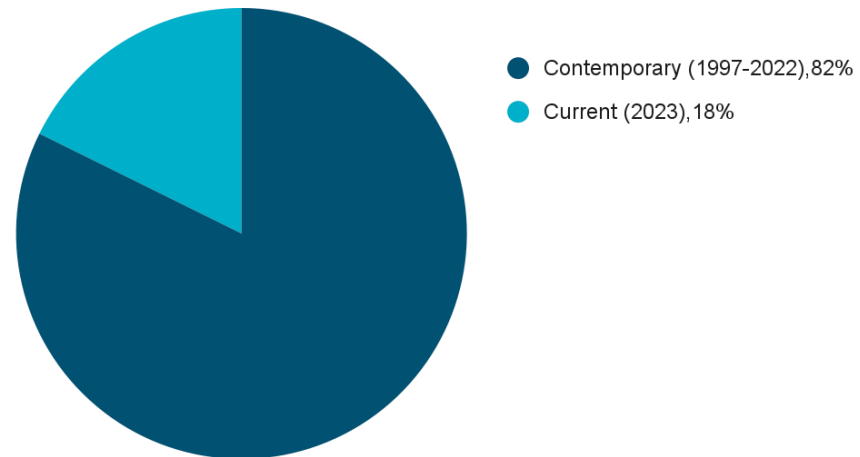
* Year = Pricelist Year.

Source: COUNTER usage data on Google BigQuery. Downloads from SpringerLink, Nature.com and BMC Platform.

4 Usage

4.3 Total Item Requests by content age

Total Item Requests by content age 2023



Source: COUNTER usage data on Google BigQuery. Downloads from SpringerLink, Nature.com and BMC Platform.



Impact

5

5 Impact

5.1 Coverage in Abstracting & Indexing (A&I) Services

Limnology is currently covered by the following (A&I) services:

AGRICOLA, Astrophysics Data System (ADS), BFI List, BIOSIS, Baidu, Biological Abstracts, CAB Abstracts, CLOCKSS, CNKI, CNPIEC, Chemical Abstracts Service (CAS), Current Contents/Agriculture, Biology & Environmental Sciences, Dimensions, EBSCO, EMBiology, Engineering Village – GEOBASE, Google Scholar, Japanese Science and Technology Agency (JST), Meta, Naver, Norwegian Register for Scientific Journals and Series, OCLC WorldCat Discovery Service, Portico, ProQuest, SCImago, SCOPUS, Science Citation Index Expanded (SCIE), TD Net Discovery Service, UGC-CARE List (India), Wanfang, Zoological Record

5.2 Google Scholar: h5 Index

The h5-index is a product of Google Scholar and shows a journal's h-Index based on the journal's articles published in the last 5 calendar years (with an overall minimum of 100 articles published during these years). The variable h is defined as the largest number of articles that have each been cited h times. The h5-Index therefore cannot be dominated by one or a few highly cited articles.

The h5 Index for <i>Limnology</i>	
Year	h5 Index
2020	15
2021	15
2022	16

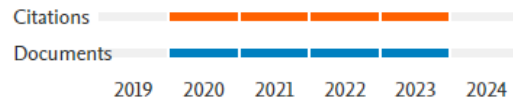
5 Impact

5.3 Metrics based on or related to Scopus

5.3.1 CiteScore - 2023

CiteScore 2023 methodology

CiteScore 2023 counts the citations received in 2020-2023 to articles, reviews, conference papers, book chapters and data papers published in 2020-2023, and divides this by the number of publications published in 2020-2023.



Want to learn more? Visit [Citescore FAQ](#)

CiteScoreTracker 2024 uses the same methodology with citations based on the latest 2024 data.

CiteScore is calculated by Elsevier, based on their Scopus database, and offers an alternative to Impact Factors. For the numerator, the 2023 CiteScore counts the citations received in 2020-2023 to documents published in 2020-2023; the denominator is the number of documents published in these years.

For *Limnology* the CiteScore = 4.3

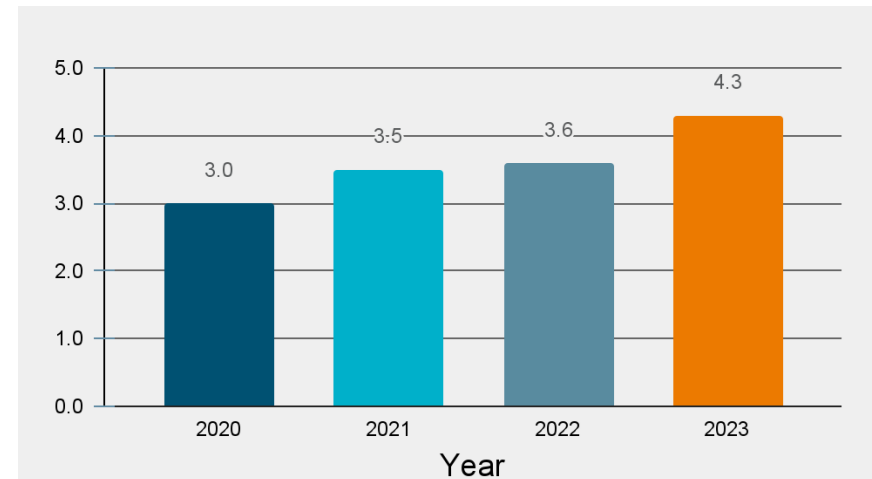
4.3

574 Citations 2020 - 2023

134 Documents 2020 - 2023

The 4-year CiteScore time window was chosen to fit all subject areas. A 4-year publication window is long enough to capture the citation peak in the majority of disciplines.

Category	Category Name	Rank	Percentile
Environmental Science	Ecology	#133/461	71st
Agricultural and Biological Sciences	Aquatic Science	#79/247	68th
Environmental Science	Water Science and Technology	#107/261	59th



Source of graphics: <https://www.scopus.com>

5 Impact

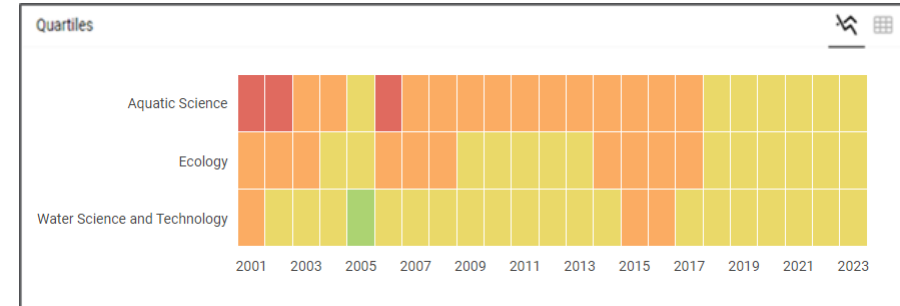
5.3.2 SJR

The **Scimago Journal Rank (SJR)**, which is based on Elsevier's Scopus database, is generated by an independent agency, calculating the number of citations in one year to a journal's articles in the preceding three years, weighted by the importance or prestige (calculated by a SJR algorithm) of the citing journals.

Colour legend:

Top quartile – quartile 2 – quartile 3 – bottom quartile

Source: <https://www.scimagojr.com/>

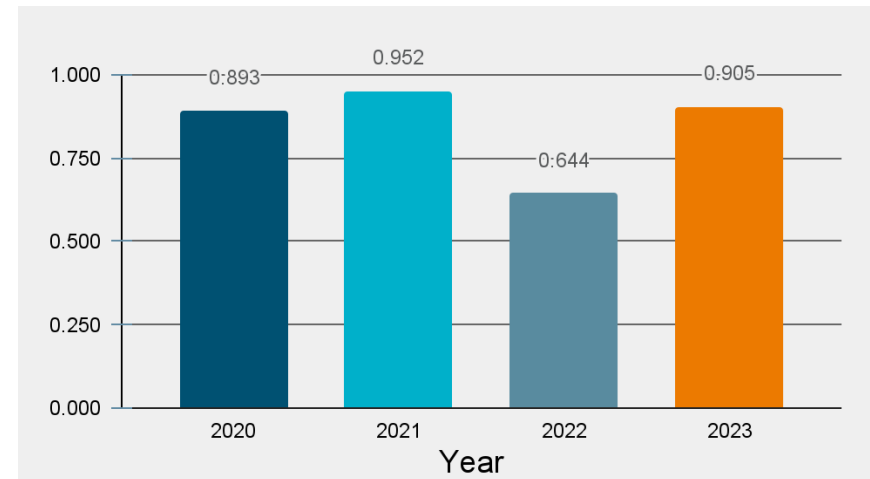


5.3.3 SNIP

The calculation of the **Source Normalized Impact per Paper (SNIP)**, also Scopus-based, starts off similarly as for the SJR but then contextualizes and normalizes a journal's citation-based impact by taking into account the total number of citations in a research discipline. Effectively, in a field where reference lists tend to be shorter, each citation counts more (and vice versa). A SNIP value of 1.0 represents the median (not the mean) number of citations for journals in a given field.

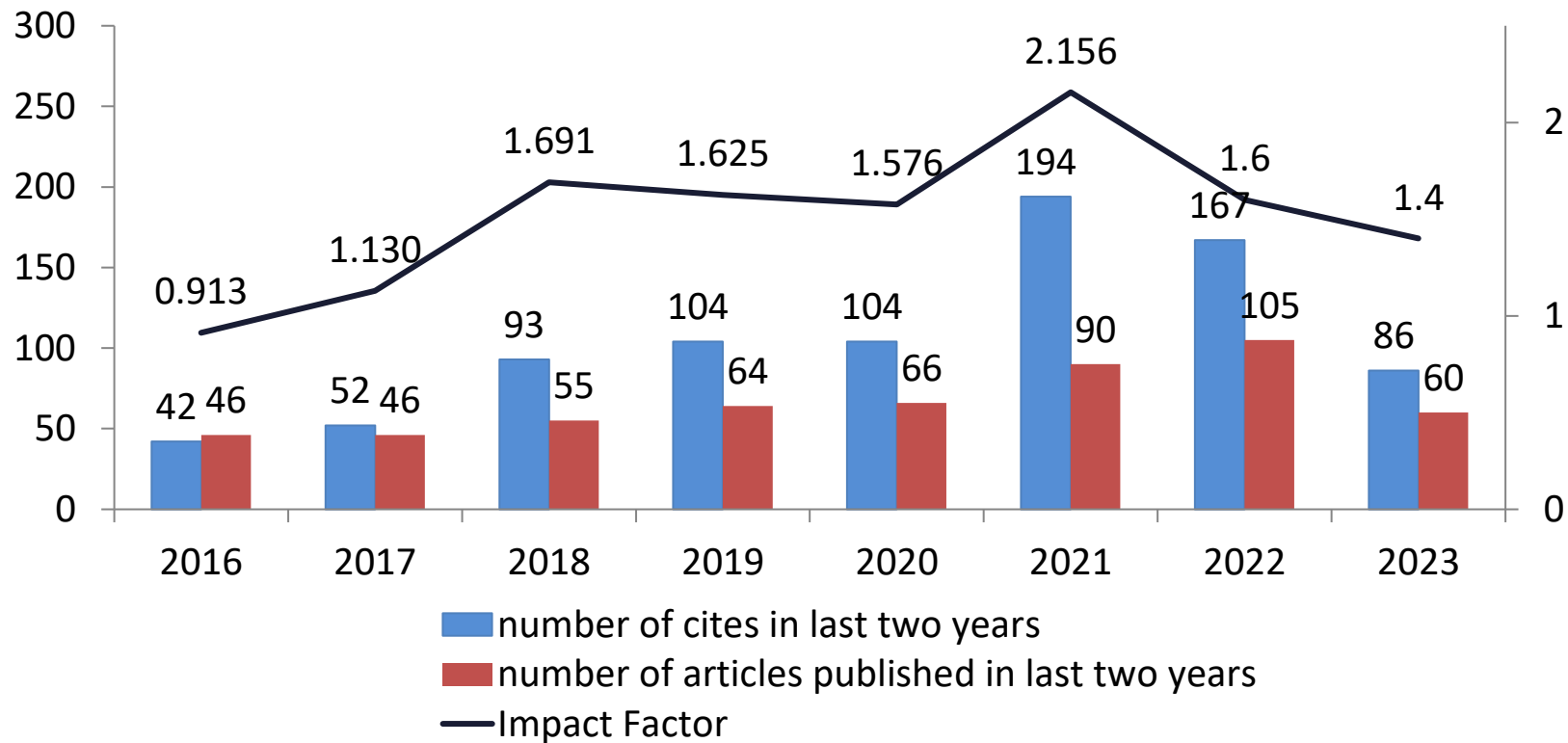
For both SJR and SNIP, inaccurate Scopus data will result in inaccurate scores.

For further information on CiteScore, SJR and SNIP, see: <http://www.journalmetrics.scopus.com>



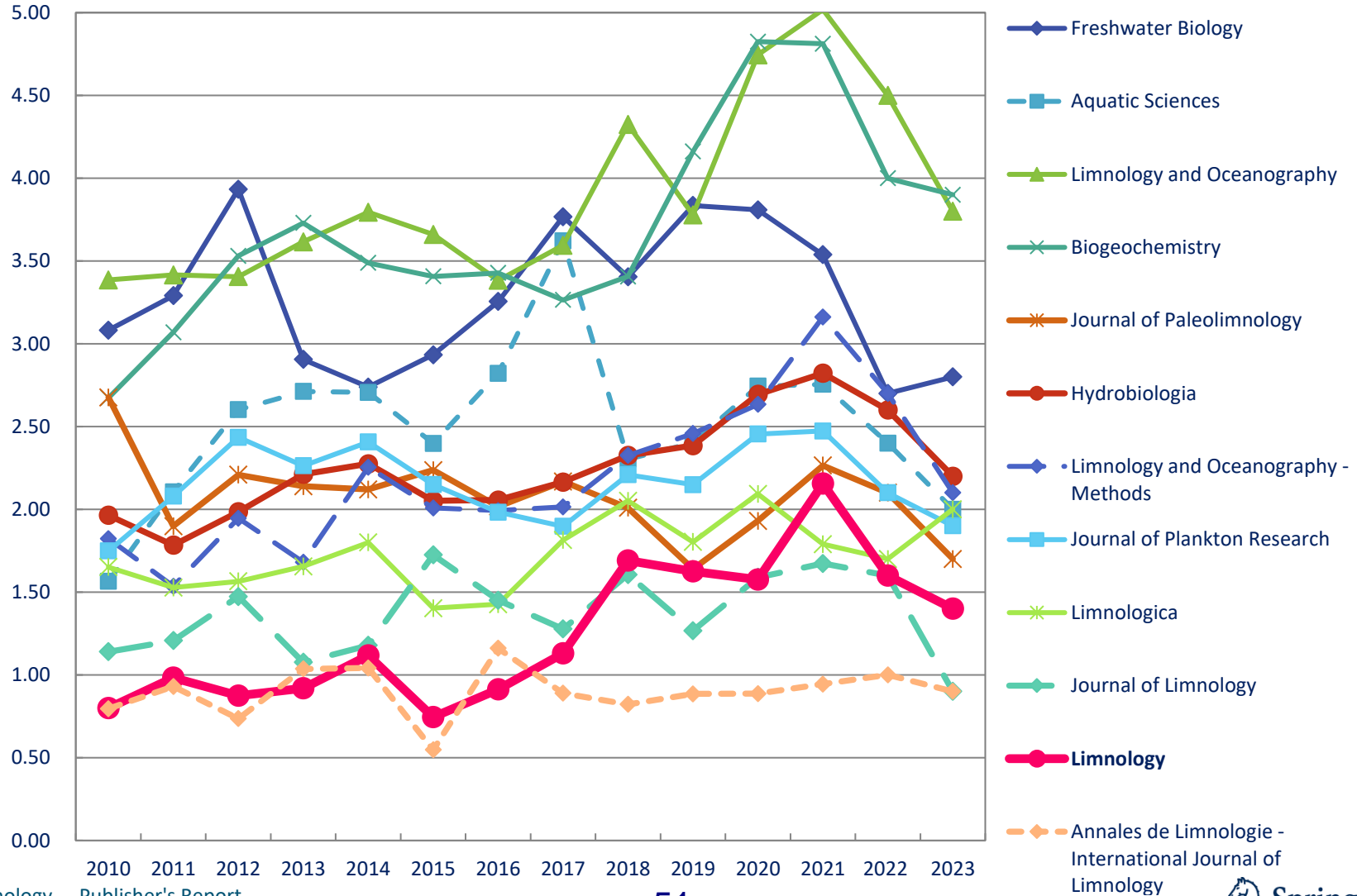
5 Impact

5.4.1 The JCR Impact Factor trend: Number of Citations and Number of Source Items



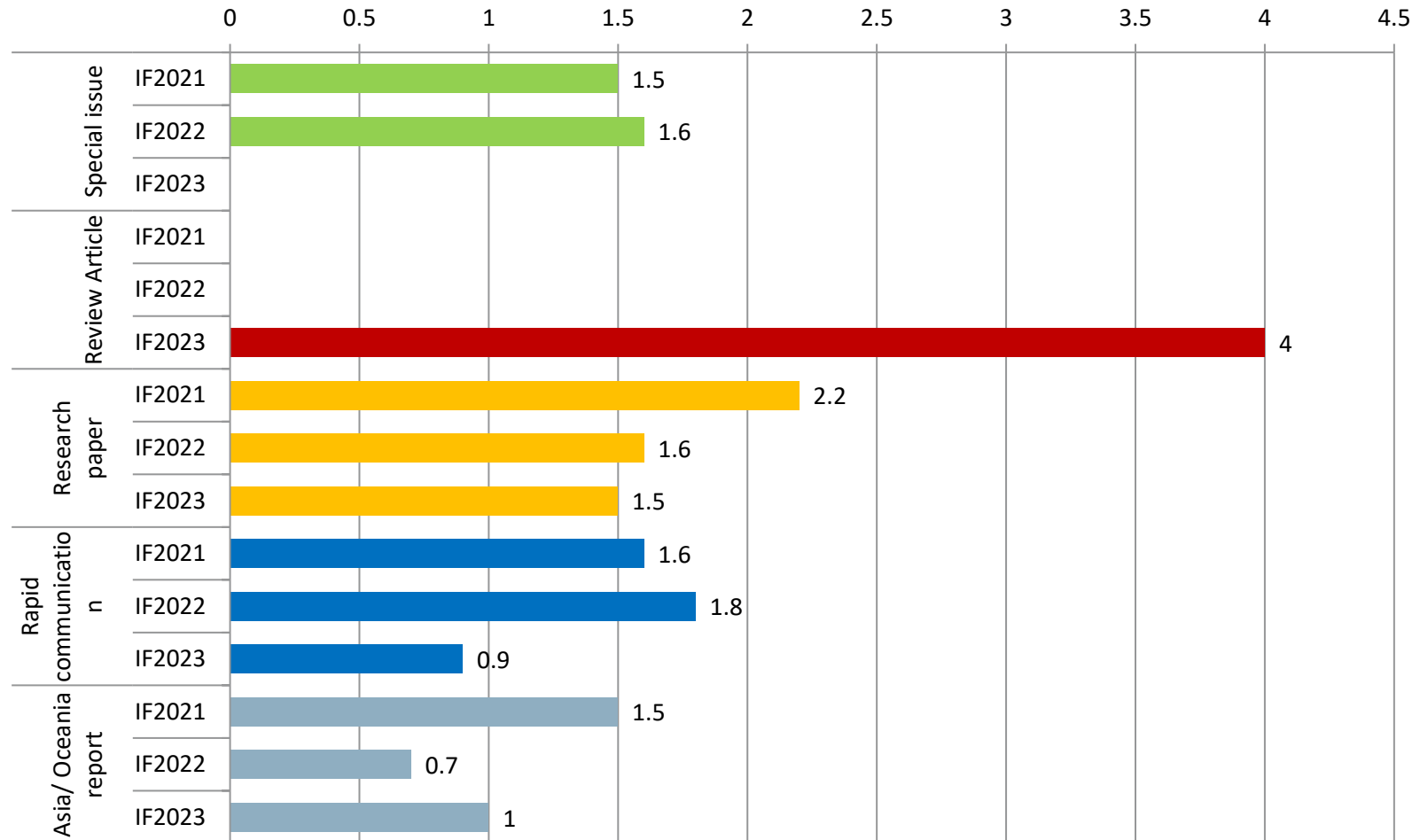
5 Impact

5.4.2 Impact Factor: Related Journals



5 Impact

5.4.3 Average Citation by Article Type



5 Impact

5.4.4 Top ranking highest cited 2021-2022 articles for IF Year 2023

Title	Author	Publication Type	Publication Date	Total Citations*	Citations For IF 2023
Impacts of a floating photovoltaic system on temperature and water quality in a shallow tropical reservoir	Yang, Peipei; Chua, Lloyd H. C.; Irvine, Kim N.; Manh Tuan Nguyen; Low, E-Wen	Research paper	2022	12	8
Benthic macroinvertebrate assemblages detect the consequences of a sewage spill: a case study of a South American environmental challenge	Callisto, Marcos; Massara, Rodrigo L.; Linares, Marden S.; Hughes, Robert M.	Research paper	2022	12	7
Abundance estimation of riverine macrophyte <i>Egeria densa</i> using environmental DNA: effects of sampling season and location	Kodama, Takao; Miyazono, Seiji; Akamatsu, Yoshihisa; Tsuji, Satsuki; Nakao, Ryohei	Research paper	2022	9	5
Distribution patterns and niche segregation of three closely related Japanese ephemeropterid mayflies: a re-examination of each species' habitat from megadata held in the National Census on River Environments	Okamoto, Seiya; Tojo, Koji	Research paper	2021	8	5
Benthic macroinvertebrates of tropical streams: functional and trophic diversity of the Lacantun River, Mexico	Cortes-Guzman, Daniela; Alcocer, Javier; Cummins, Kenneth W.	Research paper	2021	8	4
Geographical fine-scaled distributional differentiation caused by niche differentiation in three closely related mayflies	Okamoto, Seiya; Saito, Tatsuaki; Tojo, Koji	Research paper	2022	6	4

5 Impact

Top ranking highest cited 2021-2022 articles for IF Year 2023 (Cont.)

Title	Author	Publication Type	Publication Date	Total Citations*	Citations For IF 2023
Water hyacinth infestation in Lake Tana, Ethiopia: a review of population dynamics	Cai, Ji; Jiao, Chunmeng; Mekonnen, Mulatie; Legesse, Solomon Addisu; Ishikawa, Kanako; Wondie, Ayalew; Sato, Shinjiro	Review article	2023	5	4
Dam promotes downriver functional homogenization of phytoplankton in a transitional river-reservoir system in Amazon	de Castro, Luana Silva; de Souza Lopes, Adriani Aragao; Colares, Lucas; Palheta, Leandra; Menezes, Mayko de Souza; Fernandes, Luciana Mendes; Dunck, Barbara	Research paper	2021	12	3
Application of environmental DNA metabarcoding in a lake with extensive algal blooms	Wu, Qianqian; Sakata, Masayuki K.; Wu, Deyi; Yamanaka, Hiroki; Minamoto, Toshifumi	Asia/Oceania report	2021	7	3
Cadmium uptake and oxidative-stress-induced DNA alterations in the freshwater cladoceran <i>Moina macrocopa</i> (Straus 1820) following consecutive short-term exposure assessments	Samarakoon, Thilomi; Fujino, Takeshi; Hagimori, Masayori; Saito, Rie	Research paper	2023	4	3

5 Impact

Ranking within categories in the IF Year 2023

Category Name	Total Journals in Category	Journal Rank in Category	Quartile in Category
Limnology	22	14	Q3

Top 20 journals in the category Limnology and the rank of *Limnology*

Rank	Abbreviated Journal Title	Publisher	ISSN	Total Cites	Impact Factor	IF without Journal Self Cites	5-Year Impact Factor
1	LIMNOL OCEANOGR LETT	WILEY	2378-2242	1,785	5.1	4.7	7.5
2	WATER RESOUR RES	AMER GEOPHYSICAL UNION	0043-1397	64,158	4.6	4.2	5.9
3	LIMNOL OCEANOGR	WILEY	0024-3590	28,412	3.8	3.6	4.4
4	INLAND WATERS	TAYLOR & FRANCIS LTD	2044-2041	1,177	2.7	2.6	2.6
5	WATER ENVIRON RES	WILEY	1061-4303	4,762	2.5	2.3	2.8
6	J GREAT LAKES RES	ELSEVIER SCI LTD	0380-1330	6,106	2.4	2.0	2.6
7	LIMNOL OCEANOGR-METH	WILEY	1541-5856	3,759	2.1	2.0	2.8
8	AQUAT SCI	SPRINGER BASEL AG	1015-1621	3,213	2.0	1.9	2.2
8	LIMNOLOGICA	ELSEVIER GMBH	0075-9511	2,067	2.0	1.9	2.2
10	MAR FRESHWATER RES	CSIRO PUBLISHING	1323-1650	5,751	1.8	1.7	1.9
11	AQUAT ECOL	SPRINGER	1386-2588	2,292	1.7	1.6	2.0
11	J PALEOLIMNOL	SPRINGER	0921-2728	3,383	1.7	1.5	1.8
11	WATER ENVIRON J	WILEY	1747-6585	1,594	1.7	1.7	1.8
14	LIMNOLOGY	SPRINGER JAPAN KK	1439-8621	1,008	1.4	1.4	1.7
15	J OCEANOL LIMNOL	SCIENCE PRESS	2096-5508	1,531	1.3	1.3	1.5
15	J FRESHWATER ECOL	TAYLOR & FRANCIS INC	0270-5060	1,176	1.3	1.2	1.4
17	LIMNETICA	ASOC ESPAN LIMNOL-MISLATA	0213-8409	736	1.2	1.1	1.4
18	LAKE RESERV MANAGE	TAYLOR & FRANCIS INC	1040-2381	1,218	1.1	1.1	1.8
19	J LIMNOL	PAGEPRESS PUBL	1129-5767	1,354	0.9	0.9	1.4
19	FUND APPL LIMNOL	E SCHWEIZERBARTSCHE VERLAGSBUCHHANDLUNG	1863-9135	745	0.9	0.8	0.8

5 Impact

Top 20 Cited Journals

Number of times articles published in 2023 (in journals below) cited articles published in *Limnology* (in years below)

Impact	Cited Journals	Cited Year	
		All Years	2023
3.0	WATER-SUI	58	0
8.2	SCI TOTAL ENVIRON	45	0
2.2	HYDROBIOLOGIA	37	1
	ENVIRON SCI POLLUT R	21	0
1.4	LIMNOLOGY	20	1
2.9	ENVIRON MONIT ASSESS	17	0
8.0	J ENVIRON MANAGE	17	0
2.0	AQUAT SCI	17	0
7.0	ECOL INDIC	15	1
5.3	MAR POLLUT BULL	15	0
2.3	PEERJ	13	0
3.3	SUSTAINABILITY-BASEL	13	0
7.7	ENVIRON RES	13	0
10.8	ENVIRON SCI TECHNOL	12	0
0.8	ZOOTAXA	11	0
11.4	WATER RES	11	0
2.0	LIMNOLOGICA	11	0
2.8	FRESHWATER BIOL	11	0
2.1	DIVERSITY-BASEL	11	0
2.8	FRONT MAR SCI	10	0
	ALL Journals	1,008	12
	ALL OTHERS	237	2

Top 20 Citing Journals

Number of times articles published in journals below (in years below) were cited in *Limnology* in 2023

Impact	Citing Journals	Cited Year	
		All Years	2023
2.2	HYDROBIOLOGIA	65	0
3.8	LIMNOL OCEANOGR	32	0
2.8	FRESHWATER BIOL	30	0
8.2	SCI TOTAL ENVIRON	23	0
2.9	PLOS ONE	20	0
1.4	LIMNOLOGY	20	1
11.4	WATER RES	19	0
7.0	ECOL INDIC	19	0
1.9	CAN J FISH AQUAT SCI	14	0
1.7	AQUAT ECOL	12	0
2.0	AQUAT SCI	11	0
4.4	ECOLOGY	11	0
	R LANG ENV STAT COMP	11	0
50.5	NATURE	11	0
	BRAZ J BIOL	10	0
16.7	TRENDS ECOL EVOL	10	0
2.9	ENVIRON MONIT ASSESS	9	0
44.7	SCIENCE	9	0
8.1	CHEMOSPHERE	9	0
6.3	METHODS ECOL EVOL	9	0
	ALL Journals	1,290	5
	ALL OTHERS	465	2



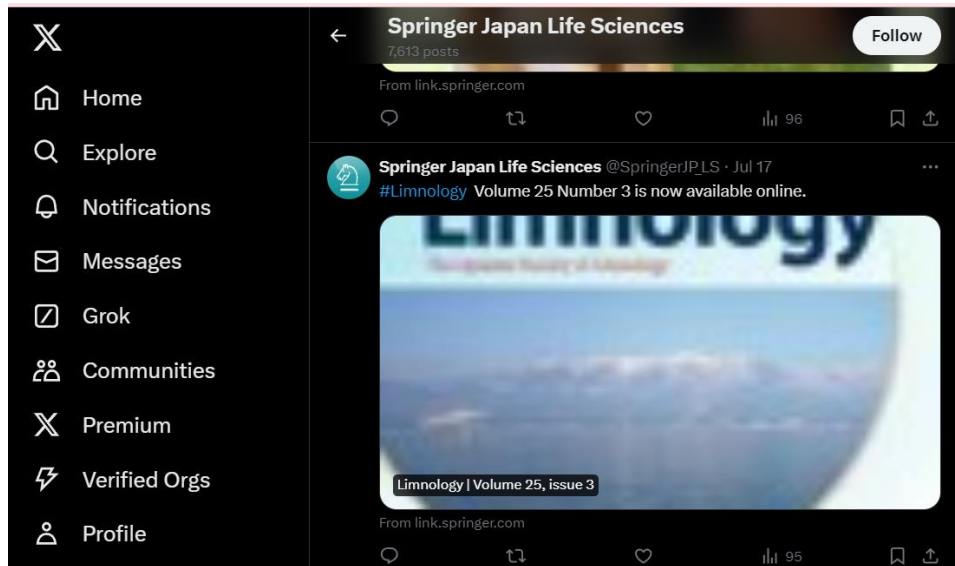
Marketing & Services

6

6 Marketing & Services

6.1 Marketing Year-in-Review

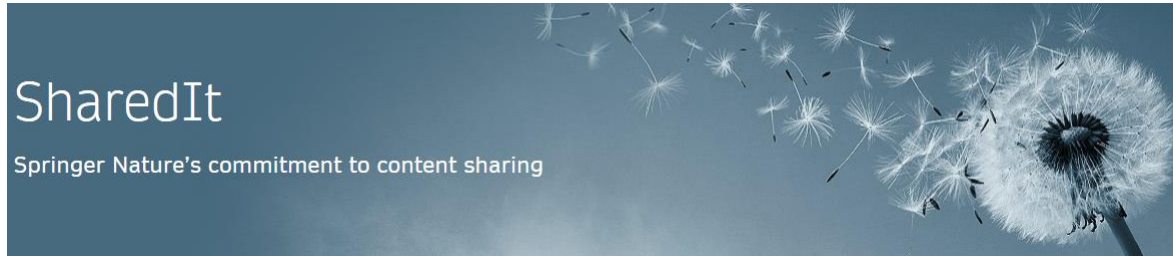
- Social media: we engage with our social communities on a regular basis and were happy to share news about Limnology with our fans and followers. Please keep us informed of any other news we can share on our social media sites
- We provide a dedicated best paper award voucher on behalf of the journal
- Limnology has been including the topical collection :Sustaining Life Below Water



Journal	Publishing model	Journal Impact Factor	Downloads	Submission to first decision (median)
Aquatic Sciences Aquatic Sciences: Research Across Boundaries is a comprehensive journal focused on research encompassing all aspects of aquatic systems.	Hybrid	2.0 (2023)	235.6k (2023)	5 days
Marine Biology Marine Biology is an international journal publishing original contributions from all fields of marine biology.	Hybrid	2.1 (2023)	952.7k (2023)	9 days
Coral Reefs Coral Reefs is a multidisciplinary journal focusing on diverse aspects of coral reef science and management.	Hybrid	2.7 (2023)	657.8k (2023)	16 days
Marine Biotechnology Marine Biotechnology is a high-quality research journal focusing on the biotechnology of aquatic organisms.	Hybrid	2.6 (2023)	239.8k (2023)	16 days
Limnology Limnology publishes original scientific contributions in the fields of physical, chemical, biological, and related research, including environmental issues.	Hybrid	1.4 (2023)	76.6k (2023)	21 days

6 Marketing & Services

6.2 SharedIt



Springer Nature wants researchers to share content easily and legally. Our Springer Nature SharedIt content-sharing initiative means that links to view-only, full-text subscription research articles can be posted anywhere - including on social media platforms, author websites and in institutional repositories - so researchers can share research with colleagues and general audiences.

NB: The table will also include open access articles that have been shared.

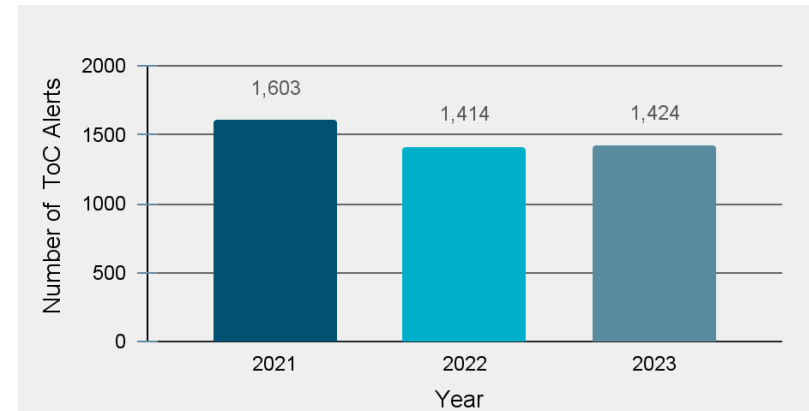
Limnology					
Peer to Peer Sharing Views (Non-Authors)			Author Sharing Views		
Total 2022	Total 2023	Total 2024 - May	Total 2022	Total 2023	Total 2024 - May
29	8	3	255	180	19

	Peer to Peer Sharing Views (Non-Authors)	Author Sharing Views
2024-01		1
2024-02	2	6
2024-03	1	6
2024-04		2
2024-05		4
2024-06		
2024-07		
2024-08		
2024-09		
2024-10		
2024-11		
2024-12		

6 Marketing & Services

6.3 Table of Contents (ToC) Alerts

- The ToC Alerts inform readers when a new issue is available online. Customers can easily register for this free service on the journal's homepage. The email contains direct links to the articles and if the registered ToC Alerts subscribers have access through their institutions, they can link directly to the papers. Nonsubscribers to the journal have access to the abstract and may purchase individual articles.
- In 2023, Springer sent out a total of ~29M ToC Alerts to over 3,345,581 subscribers.
- Readers can easily sign up for the ToC Alerts, by using the *One-click Sign-up*: your exclusive link:
<https://www.springer.com/alerts-frontend/subscribe?journalNo=10201>
 Copy and paste your exclusive link to your website, newsletters and social media accounts.



Run Date: 09 Aug 2024

Sachiko Hayakawa

Publisher

+81345338273

sachiko.hayakawa@springer.com

Contacts

2023年度一般会計決算書

[収入]

[単位:円]

費目	2021年度		2022年度		2023年度	
	決算	予算	決算	予算	決算	予算
前年度繰越金	13,391,546	11,051,227	16,891,902	11,034,127	19,865,311	
会費収入	6,561,000	6,372,890	6,483,095	6,500,000	5,888,000	
会誌売上金	843,608	600,000	436,947	600,000	648,069	
広告掲載料	60,000	100,000	90,000	100,000	0	
利息	5	10	3	10	10	
別刷負担金(ページチャージ)	389,986	0	408,738	0	837,591	
一般助成金	0	0	0	0	0	
雑収入	315,334	0	45,384	0	470,255	
寄付金	10,664	0	961,937	0	0	
収入総計	21,572,143	18,124,127	25,318,006	18,234,137	27,709,236	

7,843,925 (収入総計-前年度繰越金)

[支出]

[単位:円]

[単位:円]

費目	2021年度		2022年度		2023年度	
	決算	予算	決算	予算	決算	予算
会誌印刷費	2,085,165	1,500,000	1,510,595	2,000,000	1,684,947	
英文誌	(292,000)	(0)	(244,000)	0	(214,500)	
和文誌	(1,793,165)	(1,500,000)	(1,266,595)	(1,500,000)	(1,470,447)	
J-STAGE 陸水学雑誌アップロード	50,930	100,000	50,050	100,000	94,600	
会誌発送費	228,938	0	198,930	0	231,753	
英文誌編集委員会費用	115,200	320,000	168,240	320,000	93,120	
和文誌編集委員会費用	754,600	210,000	189,200	210,000	172,480	
英文校正料	47,206	50,000	33,384	50,000	33,158	
選挙費用準備金	0	0	0	0	0	
選挙費用	25,765	0	277,914	300,000	56,780	
評議員会費用	0	5,000	0	5,000	0	
幹事会費用(旅費)	0	250,000	654	250,000	0	
幹事会費用(人件費)	0	0	0	0	0	
幹事会費用(雑費)	0	10,000	8,164	10,000	4,635	
専門委員会費用	28,242	50,000	0	50,000	0	
大会準備旅費(幹事・企画委員会)	0	400,000	0	400,000	0	
学会業務委託費	950,556	2,000,000	2,505,687	2,000,000	1,182,121	
学会業務委託費	(254,959)	-	(566,100)	-	(56,898)	
会員業務	(147,220)	-	(1,641,995)	-	(675,630)	
学会業務関連消耗品(委託外費)	(42,460)	-	(22,920)	-	(47,720)	
ホームページ・ML関連費用	(91,000)	-	(60)	-	(119,600)	
大会HP作成・更新	(0)	(500,000)	(0)	(500,000)	(0)	
通信費	(195,610)	-	(26,425)	-	(17,452)	
会誌保管管理費	(121,540)	-	(88,700)	-	(157,360)	
消費税	(97,767)	-	(99,747)	-	(107,461)	
支払手数料	7,875	20,000	7,590	20,000	13,661	
大会準備金	200,000	400,000	200,000	400,000	400,000	
大会リモート関連費	0	900,000	0	900,000	0	
学会活性化費	0	200,000	0	400,000	0	
学会賞関連費	185,764	200,000	201,787	200,000	433,520	
環境教育推進費	0	0	0	0	0	
シンポジウム開催費	0	300,000	0	300,000	73,912	
団体加盟費	0	0	0	0	0	
諸雑費	0	25,000	500	25,000	2,270	
税務処理契約費	0	150,000	0	150,000	0	
予備費	0	11,034,127	0	10,144,137	0	
支出総計	4,680,241	18,124,127	5,352,695	18,234,137	4,476,957	

[繰越金]

[単位:円]

収入総計	27,709,236
支出総計	4,476,957
差引金額	23,232,279

単年度収支

[単位:円]

単年度収入総計	7,843,925
単年度支出総計	4,476,957
差引金額	3,366,968

2022年度次年度繰越金(単位:円)

繰越金合計	19,865,311
-------	------------

2023年度次年度繰越金(単位:円)

繰越金合計	23,232,279
-------	------------

学会資産 2023年12月31日現在(単位:円)

普通預金	3,215,785
振替貯金	19,973,926
現金	42,568
合計	23,232,279

2024年度一般会計予算書実績

[収入]

[単位:円]

費目	2023年度		2024年度	
	予算	決算	予算	実績
前年度繰越金	11,034,127	19,865,311	17,000,000	23,232,279
会費収入	6,500,000	5,888,000	6,500,000	2,293,000
会誌売上金	600,000	648,069	600,000	482,079
広告掲載料	100,000	0	50,000	0
利息	10	10	10	111
別刷負担金(ページチャージ)	0	837,591	0	21,880
一般助成金	0	0	0	0
雑収入	0	470,255	0	9,903
寄付金	0	0	0	0
収入総計	18,234,137	27,709,236	24,150,010	26,039,252
単年度収入(収入総計-前年度繰越金)	7,200,010	7,843,925	7,150,010	2,806,973

[支出]

[単位:円]

[単位:円]

費目	2023年度		2024年度	
	予算	決算	予算	実績
会誌印刷費	2,000,000	1,684,947	2,000,000	766,458
英文誌	0	(214,500)	(500,000)	(0)
和文誌	(1,500,000)	(1,470,447)	(1,500,000)	(766,458)
J-STAGE 陸水学雑誌アップロード	100,000	94,600	100,000	16,280
会誌発送費	0	231,753	0	213,046
英文誌編集委員会費用	320,000	93,120	320,000	200,000
和文誌編集委員会費用	210,000	172,480	210,000	187,440
英文校正料	50,000	33,158	50,000	10,129
選挙費用準備金	0	0	0	0
選挙費用	300,000	56,780	0	362,083
評議員会費用	5,000	0	5,000	0
幹事会費用(旅費)	250,000	0	250,000	0
幹事会費用(人件費)	0	0	0	0
幹事会費用(雑費)	10,000	4,635	10,000	0
専門委員会費用	50,000	0	50,000	0
大会準備旅費(幹事・企画委員会)	400,000	0	400,000	0
学会業務委託費	2,000,000	1,182,121	2,000,000	1,093,645
学会業務委託費	-	(56,898)	-	(36,550)
会員業務	-	(675,630)	-	(687,420)
学会業務関連消耗品(委託外費)	-	(47,720)	-	(58,245)
ホームページ・ML関連費用	-	(119,600)	-	(86,200)
大会HP作成・更新	(500,000)	(0)	(500,000)	0
通信費	-	(17,452)	-	(13,595)
会誌保管管理費	-	(157,360)	-	(112,310)
消費税	-	(107,461)	-	(99,325)
支払手数料	20,000	13,661	20,000	11,630
大会準備金	400,000	400,000	400,000	400,000
大会リモート関連費	900,000	0	0	0
学会活性化費	400,000	0	200,000	0
学会賞関連費	200,000	433,520	200,000	39,650
環境教育推進費	0	0	0	0
シンポジウム開催費	300,000	73,912	300,000	0
団体加盟費	0	0	0	0
諸雑費	25,000	2,270	25,000	1,010
税務処理契約費	150,000	0	150,000	0
予備費	10,144,137	0	17,460,010	0
支出総計	18,234,137	4,476,957	24,150,010	3,301,371

日本陸水学会 2023 年度 会計監査報告

日本陸水学会
会長 占部 城太郎 様

日本陸水学会 2023 年度会計について、諸帳簿、収支決算書、貯金通帳、現金及び関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ正確であることを証明します。

2024 年 10 月 8 日 川端 良子  印

2024 年 10 月 8 日 石川 尚人  印

2025年度一般会計予算書(案)

[収入]

[単位:円]

費目	2023年度		2024年度	2025年度
	予算	決算	予算	予算
前年度繰越金	11,034,127	19,865,311	17,000,000	25,000,000
会費収入	6,500,000	5,888,000	6,500,000	6,500,000
会誌売上金	600,000	648,069	600,000	600,000
広告掲載料	100,000	0	50,000	50,000
利息	10	10	10	10
別刷負担金(ページチャージ)	0	837,591	0	300,000
一般助成金	0	0	0	0
雑収入	0	470,255	0	450,000
寄付金	0	0	0	0
収入総計	18,234,137	27,709,236	24,150,010	32,900,010
単年度収入(収入総計-前年度繰越金)	7,200,010	7,843,925	7,150,010	7,900,010

[支出]

[単位:円]

費目	2023年度		2024年度	2025年度
	予算	決算	予算	予算
会誌印刷費	2,000,000	1,684,947	2,000,000	2,000,000
英文誌	(0)	(214,500)	(500,000)	(500,000)
和文誌	(1,500,000)	(1,470,447)	(1,500,000)	(1,500,000)
J-STAGE 陸水学雑誌アップロード	100,000	94,600	100,000	100,000
会誌発送費	0	231,753	0	250,000
英文誌編集委員会費用	320,000	93,120	320,000	600,000
和文誌編集委員会費用	210,000	172,480	210,000	210,000
英文校正料	50,000	33,158	50,000	50,000
選挙費用準備金	0	0	0	0
選挙費用	300,000	56,780	0	300,000
評議員会費用	5,000	0	5,000	5,000
幹事会費用(旅費)	250,000	0	250,000	250,000
幹事会費用(人件費)	0	0	0	0
幹事会費用(雑費)	10,000	4,635	10,000	10,000
専門委員会費用	50,000	0	50,000	50,000
大会準備旅費(幹事・企画委員会)	400,000	0	400,000	400,000
学会業務委託費	2,000,000	1,182,121	2,000,000	2,000,000
学会業務委託費	-	(56,898)	-	-
会員業務	-	(675,630)	-	-
学会業務関連消耗品(委託外費)	-	(47,720)	-	-
ホームページ・ML関連費用	-	(119,600)	-	-
大会HP作成・更新	(500,000)	(0)	(500,000)	(500,000)
通信費	-	(17,452)	-	-
会誌保管管理費	-	(157,360)	-	-
消費税	-	(107,461)	-	-
支払手数料	20,000	13,661	20,000	20,000
大会準備金	400,000	400,000	400,000	400,000
大会リモート関連費	900,000	0	0	0
学会活性化費	400,000	0	200,000	500,000
学会賞関連費	200,000	433,520	200,000	250,000
環境教育推進費	0	0	0	0
シンポジウム開催費	300,000	73,912	300,000	300,000
団体加盟費	0	0	0	0
諸雑費	25,000	2,270	25,000	25,000
税務処理契約費	150,000	0	150,000	-
予備費	10,144,137	0	17,460,010	25,180,010
支出総計	18,234,137	4,476,957	24,150,010	32,900,010

2024 年度日本陸水学会国際交流奨励賞(募集掲載期間 2024 年 4 月 4 日~5 月 31 日)

陸水学にかかわる広範な国際交流を支援するために、2024 年度の国際交流奨励賞を 4 月 4 日から 5 月 31 日まで募集し、期限内に 2 名の応募がありました。応募者は富山県立大学大学院工学研究科修士課程 米山貴将氏、京都大学生態学研究センター助教 大竹裕里恵氏の 2 名でした。審査を実施するにあたり、応募者の一人が内規に定められた国際交流奨励賞選考委員会メンバーの一人である陸水学会会長と利害関係にあるため、公平性の観点から会長と相談した結果、松崎環境幹事に会長の代役として選考委員に入っていたいただき、英文誌編集委員長、和文誌編集委員長および国際幹事の 4 名にて国際交流奨励賞選考委員会を構成し審査を実施しました。両名とも応募資格を満たすとともに、応募理由においても支援の必要性が明確に記載されておりました。日本の陸水学を担う若者として助成に値すると考えられ、両名を受賞者として助成することを国際交流奨励賞選考委員の案として評議員にメール審議で諮ったところ、同年 7 月 16 日に承認されました。受賞者および発表予定の国際学会は以下の通りです(記載は五十音順)。本年度は、渡航費、滞在費および参加費を含め最大 10 万円/人を助成することとしました。

<受賞者>

大竹 裕里恵 (京都大学生態学研究センター)

参加学会名：Cladocera XII

開催日程：October 6-12, 2024/ 開催場所：Verbania (Italy)

参加方法：現地での発表

発表タイトル：How was the genetic structure of *Daphnia pulex* population in a small lake developed from the early colonization? Examination by paleolimnology, laboratory experiment and theoretical analysis

応募者は、これまで古陸水学的手法を用いた枝角類群集の長期変動を研究してきており、近年は枝角類の遺伝的多様性の維持に関わる環境変動の研究を進め、現在までに原著論文を 6 本発表している(共著含む)。今回の学会発表では、ミジンコ個体群が限られた遺伝的多様性で維持されてきたこと、遺伝的に離れた系統が近年に移住したことを示し、異なる系統の共存をもたらした休眠戦略の違いに関する研究発表を行う。応募者は日本の陸水学・プランクトン学を世界に発信したいという積極的な姿勢がある。

米山 貴将 (富山県立大学大学院・工学研究科)

参加学会名：韓国陸水学会

開催日程：August 23-24, 2024 / 開催場所：Daegu (Korea)

参加方法：現地での発表

発表タイトル：Food Quantity and Quality Effect on Morphology and Life History Characteristic of *Daphnia galeata*

応募者は枝角類動物プランクトンの形態学的変化と環境変動の関係に興味を持って研究を進めており、修士課程の現在までに4件の学会発表を行っている。今回の学会発表では餌の量と質のどちらが枝角類動物プランクトンのろ過スクリーン面積に影響を与えるのかを実験室で調べ、現場においても同様の関係を明らかにした研究内容を発表する。国際学会での発表に加え、韓国の大学との現地フィールドを対象とした共同研究の打ち合わせを予定するなど、国際的な研究を進める意欲にあふれている。

2024.10.19

2024 年度 総会議事 広報・情報幹事からの報告・審議依頼事項

[web 担当]

- ◆ 第 88 回 日本陸水学会 熊本大会のウェブページへのリンクを行った。
- ◆ 陸水学会ウェブページの以下の項目について更新を行った(お知らせ以外):
 - 1) 陸水学会 web 内の情報更新を行った(会則・規約・問合せ窓口 等)
- ◆ 陸水学会ウェブページの「お知らせ」について、2024 年 1 月 1 日～現在(2024 年 9 月 6 日)まで以下の件数の掲載を行った。陸水学会関係者からの掲載依頼は随時対応した。陸水学会関係者以外からの依頼についても基本的に随時対応する形をとったが、掲載すべきか迷うものに関しては会長や幹事会に事前に確認するようにした。
→合計 24 件 (内 重要なお知らせ 1 件, 陸水学会主催の学術大会・イベント:1件, 学会以外主催のイベント:4 件, 公募:15 件, その他3件)

[メールリスト担当(報告事項のみ)]

- ◆ メールリストについて
前回幹事会以降、登録件数 2 件、配信先変更・確認 2 件
- ◆ メールリストに関する次年度以降の国際文献社との契約について
国際文献社より、学会メールリストを同社が提供している HDE メール配信のサービスに移行する提案あり(2024/9/26)。
現状のメールリストでは全登録者がメールを配信可能だが、移行した場合には配信権限が管理者(メールリスト担当)のみにあり、管理者が文章を受け取って配信することとなる。
 - 移行のメリット:
 - ・従来のメールリストを継続する場合に必要なレンタルサーバー代(26,400 円/年)が削減可能
 - ・現在、複数の機関で確認されている、メール受領の不具合が改善される可能性(ただし、逆に受領できない機関が増える可能性も)
 - 移行のデメリット:
 - ・管理者しか配信できないため、会員は逐一管理者に文面を送る必要がある
 - ・管理者の負担が増える可能性がある

会員のご意見も伺いつつ、11 月末ごろまでに決定の予定。

なお、移行しない場合でも、メール受領に不具合がある場合には、所属機関のほかに個人のフリーアドレス等をメールリストに登録することを勧める。

登録の場合は、陸水学会 HP の「メールリスト」に記載の連絡先にご連絡いただきたい。

以上

環境幹事：現在の役割(会則より)

〈学会名あるいは会長名で発信する対外的な要望書や声明文の取り扱いについて（指針）〉

趣旨：

日本陸水学会（以下、学会）は、ときとして各種の環境問題や社会問題等に直接関係のある事案を取り扱うことがある。そのような場合、事案によっては、学会名あるいは会長名を付した要望書や声明文を対外的に発信する必要があることがある。本指針は、このような場合に対応する時の手順を示す。

1. 日本陸水学会会員（以下、会員）または学会附置の委員会は、学会名あるいは会長名を付した要望書／声明文を対外的に発信する必要がある場合、これを学会に要求することができる。会長は、陸水学の進歩・普及ならびに応用に資することが自明である場合は、評議員会の審議を経て要求された文書を対外的に発信することができる。なお、要求された文書が、著しく他の利益を損なう恐れがある場合は、評議員会および総会において慎重な審議を経て実施する。
2. 学会名あるいは会長名を付した要望書や声明文を必要とする会員は、学会の環境幹事に要望書／声明文の素案を電子ファイルで提出する。この場合、提出する文書の様式は別に定めるが、以下の項目について記載する。
 - (1) 提案に関する代表者ならびに賛同者の氏名、所属、連絡先
 - (2) 発信すべき要望の題目、素案、提出先
 - (3) 要望を提出すべきと考える理由
 - (4) 要望を提出すべきと考える原因となった、要望提出先による記事あるいは活動の証拠（書籍の該当する部分、活動の案内文、新聞記事の複写など）
 - (5) 要望が適正であることを示す科学的根拠（その基礎となる研究論文や資料を添付のこと）
3. 要求を受け取った環境幹事は、幹事長と会長に要求事案が生じた旨を連絡する。
4. 環境幹事、幹事長と会長は、上記1の基準に基づいて当該要求事案に関する要望書／声明文を発信すべきかどうかを議論する。
5. 環境幹事、幹事長と会長が発信すべきと判断した場合、評議員会に諮る。評議員会による審議は、上記1の基準に基づいて行われる。
6. 評議員会は、当該案件の扱いについて①発信すべきである、②判断を総会に委ねる、③発信すべきでない、のいずれかの決定を行う。特に重要な案件で、かつ年1回の評議員会を待てないほどの緊急性が無いと判断される場合を除いて、決定に必要な議論はメール会議で行うことを原則とする。時間的もしくは社会的制約による緊急性がある場合は、時間を区切って発信の可否を問い、否が回答の過半数を超えなければ発信を行うことができる。
7. メール会議の参加者は要求した会員、評議員、環境幹事、幹事長と会長とする。
8. 上記4および6の議論および審議で、要望書／声明文の要求が認められなかった場合、要求を出した会員は学会に不服を申し立てることができる。この場合、環境幹事、幹事長と会長、あるいは評議員会は、必要に応じて再度審議を行う。
9. 案件が総会に諮られた場合、環境幹事は、評議員会での議論の内容と共に当該案件を説明し、審議に付す。この場合、総会出席者の過半数の賛成をもって最終決定を行う。

2018年2月5日改定

〈環境幹事の役割（申し合わせ）〉

本会が環境問題にどの様に対処するかは重要な課題である。陸水に関する生態系保全や水源確保その他様々な環境問題は、今後増えることはあっても無くなることはない。本会は、陸水学の進歩、普及を図るのみならず、陸水学の応用を図ることも目的に掲げており（会則第1章第2条）、本会の大会や会誌を通じて会員から独自に発信される講演や論文の中には、環境問題への対処に適用されることを意図した内容のものも増加しつつある。

環境幹事の役割は、案件（その難易度で下記ABCのランクに分類）の受け付け窓口機能を発揮することである。

- A：単純な事実確認（既存文献等の紹介で回答可能）。
- B：専門知識の問い合わせ（影響評価や将来予測などに関する通説や一般見解の紹介で回答可能）。
- C：社会問題化しているが通説や一般見解が流布していない事項等に対する公式コメントの要求。

なお環境幹事は、窓口寄せられた案件全てに逐一回答する義務を負うものではなく、むしろCランク案件への対処について指令塔的な役割を演じることが、その真の役割である。

(2006年9月12日総会承認)

提案：環境幹事の新しい役割

- 広い意味では、環境幹事は、**陸水学と社会の科学コミュニケーションを促す役割**
- SNSで、公式アカウントを作成し、情報を発信することは重要
- Limnology・陸水学雑誌で発表された論文の紹介、フィールドや道具の紹介、受賞者や学会長の紹介、シンポジウムや公募案内、書籍紹介など、発信することは多い。
- 副次的に、若手のキャリアサポート、会員間のインターラクシオン、他学会・国際的な連携の強化にもつながる。

X (旧Twitter)の活用例

日本生態学会
2,150 件のポスト

日本生態学会 @esjoffice
一般社団法人日本生態学会のアカウントです。日本生態学会は生態学およびその関連分野に関する研究を推進するために、研究者を始め関連する職業や学生の方々を会員として1953年に設立されました。

4 フォロワー中 5,183 フォロワー

ポスト

日本生態学会 @esjoffice · 9月4日
【書籍希望図書】
以下の書籍について書籍執筆者を募集しています

小池伸介・北村俊平編著「タネまく動物」(2024) 152pp.
文一総合出版 ISBN:978-4-8299-7255-7

日本生態学会 @esjoffice · 9月2日
【公募】JAMSTEC地球環境部門環境変動予測研究センター地球システムモデル開発応用グループ
職種: 特任研究員、特任准研究員またはポストドクトラル研究員1名
分野: 海洋生態学、陸域生態学、大気化学、生物地球化学等
資格: 関連分野の博士号取得者等
締切: 2024/09/12必着
jamstec.go.jp/recruit/j/deta...

日本生態学会 @esjoffice · 9月2日
東京大学大気海洋研究所共同利用研究会
「第12回海中海底工学フォーラム・ZERO」開催
日時: 2024年10月11日(金)13:00~17:00
場所: 東京大学本郷キャンパス2号館3階地球科学ホール(本郷キャンパスのハイブリッド建築) ※必ず事前登録申込書の提出を要します

さかなの学術情報局【公式】
1,107 件のポスト

さかなの学術情報局
generated by the Ichthyological Society of Japan

さかなの学術情報局【公式】 @info_fish_isj
日本魚類学会が運営する公式広報アカウントです。魚類学に関する学術情報や魚類学会の取り組みなどを中心に発信いたします。正確な情報発信に努めますが、RTやいいねは学会から何らかのお墨付きを与えるものではありませんのでご注意ください。また、原期リプライには対応しません。

2 フォロワー中 4,274 フォロワー

ポスト

固定
さかなの学術情報局【公式】 @info_fish_isj · 1時間
日本魚類学会2024年度年会(福岡大会) 研究発表1日目のプログラムが進行中です🎉
#魚類学会
さらに表示

Web 市販シンポジウム
サカナ×????
“魚類学”の多彩なアプローチ 2!!
開催地: サカナを研究する学科、用語、魚類学には生態学・分類学・生態学など、さまざまなアプローチがあります。そこでこのシンポジウムでは、魚や、その研究に関わる人、特に研究者に向けて三人の若手魚類学者を招いて、自分から話したいテーマについて発表します。発表者は、魚類学を研究対象としつつも、異なる視点から魚類学を理解しようとしている若手研究者です。シンポジウムでは、講演者の話を聞くだけでなく、質疑応答やディスカッションを通して交流を深めたいと考えています。心なご自由にご参加ください。

Web 市販シンポジウム
保全施策
入口 友香 (国海研究センター 研究員)
研究者と行政を繋ぐ関わり合いになりたい!
〜 施策支援と魚類の保全に挑む 〜

生態学
植村 洋亮 (北海道大学 環境科学院 博士後期課程)
川をひたすら歩いて
魚をひたすら探って分布メカニズムを考える

系統学
福家 悠介 (国海研究センター 学芸員)
ミヤンマーの古地理
インレー湖における固有種の記録

2024年 8月24日(土)
13:00 開演 18:00 閉演
13:00~14:00 入場券1,000円
14:00~15:00 入場券1,500円
15:00~16:00 入場券1,800円
16:00~17:00 入場券2,000円

日本魚類学会若手の会
@young_fish_isj フォロワーされています

日本魚類学会若手の会は2019年2月10日付で学会承認の任意組織として設置されました。このアカウントでは若手の会の活動を紹介・案内したり、若手にとって有益な情報のRTを行なっています。問い合わせや会員の研究成果の広報依頼等はリプライ・DMからどうぞ!

233 フォロワー中 1,526 フォロワー

ポスト

固定
日本魚類学会若手の会 @young_fish_isj · 7月24日
お魚を探索するための視野を広げべく、8/24に若手の会主催で公開Webシンポジウムを企画しました。好評につき、第2回目です! 今度も分野の異なる3人の若手研究者の公演と、その後懇親会を予定しています。会員でなくてもOK! 事前登録等不要! ぜひご参加ください!
さらに表示

Web 市販シンポジウム
サカナ×????
“魚類学”の多彩なアプローチ 2!!
開催地: サカナを研究する学科、用語、魚類学には生態学・分類学・生態学など、さまざまなアプローチがあります。そこでこのシンポジウムでは、魚や、その研究に関わる人、特に研究者に向けて三人の若手魚類学者を招いて、自分から話したいテーマについて発表します。発表者は、魚類学を研究対象としつつも、異なる視点から魚類学を理解しようとしている若手研究者です。シンポジウムでは、講演者の話を聞くだけでなく、質疑応答やディスカッションを通して交流を深めたいと考えています。心なご自由にご参加ください。

Web 市販シンポジウム
保全施策
入口 友香 (国海研究センター 研究員)
研究者と行政を繋ぐ関わり合いになりたい!
〜 施策支援と魚類の保全に挑む 〜

生態学
植村 洋亮 (北海道大学 環境科学院 博士後期課程)
川をひたすら歩いて
魚をひたすら探って分布メカニズムを考える

系統学
福家 悠介 (国海研究センター 学芸員)
ミヤンマーの古地理
インレー湖における固有種の記録

2024年 8月24日(土)
13:00 開演 18:00 閉演
13:00~14:00 入場券1,000円
14:00~15:00 入場券1,500円
15:00~16:00 入場券1,800円
16:00~17:00 入場券2,000円

SIL International Society of Limnology
International Society of Limnology

SIL Limnology @sil_limnology
The International Society of Limnology promotes and communicates new and emerging knowledge among limnologists to advance the understanding of inland waters.

449 フォロワー中 3,338 フォロワー

ポスト

固定
SIL Limnology @sil_limnology · 4月3日
This week, we celebrate one of our best educational resources: video summaries of chapters from the new edition of Wetzel's Limnology – Lake and River Ecosystems! 🎥 These videos have been produced by SIL's education team in collaboration with the authors of the chapters 🙌

INTRODUCING: WETZEL WEEK!
CELEBRATE WETZEL'S LIMNOLOGY AND EDUCATION WITH US!
2 VIDEOS POSTED EVERY DAY!!
YOUTUBE PLAYLIST: WETZEL'S LIMNOLOGY SIL VIDEOS

SIL Limnologyさんりポスト
World Water Week @siwi_www · 8月25日
World Water Week has arrived! 🌊
It's not too late to join us. Register now for a free online ticket and get access to around 300 sessions on water related topics: worldwaterweek.org/tickets

Welcome to World Water Week

ASLO Association for the Sciences of Limnology and Oceanography

ASLO @aslo_org
Association for the Sciences of Limnology & Oceanography #ASLO_LIO, #ASLO_Methods, #ASLO_Letters, #ASLO_Bulletin, #ASLO_ECC, #OSM04 & #ASLO_COSM

527 フォロワー中 8,268 フォロワー

ポスト

ASLO Awards highlight innovative research, exceptional service, and significant contributions to the field of #aquaticsciences. Nominations are open for the 2025 Awards. See full announcement and submit by 15 Oct 2024: aslo.org/2025-award-nom...

ASLO AWARDS NOMINATIONS
The ASLO AWARDS recognize scientists from diverse backgrounds and nominees are exclusively selected from member submissions.
Congratulations to Nancy Grimm for receiving the A.C. Redfield Award at ASLO23.
aslo.org/aslo-awards SUBMIT BY 15 OCT 2024

ASLOさんりポスト
Jim Cloern @DrCloern · 9月2日
Really disturbing story of fish species loss in CA
[@aslo.org](https://aslo.org), [@CERFSociety](https://twitter.com/CERFSociety), [@ECSAssociation](https://twitter.com/ECSAssociation), [@OceanDecadeECCOP](https://twitter.com/OceanDecadeECCOP), [@EGUOcean](https://twitter.com/EGUOcean), [@COESSING](https://twitter.com/COESSING), [@AmFisheriesSoc](https://twitter.com/AmFisheriesSoc), [@SWS.org](https://twitter.com/SWS.org), [@BenthosNews](https://twitter.com/BenthosNews), [@Imno_papers](https://twitter.com/Imno_papers), [@SIL_Limnology](https://twitter.com/SIL_Limnology), [@wileyearthspac](https://twitter.com/wileyearthspac), [@AGU_Os](https://twitter.com/AGU_Os), [@CASSocieties](https://twitter.com/CASSocieties), [@QCA_DWR](https://twitter.com/QCA_DWR), [@UCDavisWater](https://twitter.com/UCDavisWater)

UC Davis Center for Watershed Sciences @UCDavisWater · 9月1日
"Watching native fishes vanish," by Andrew Rypel (@andrewrypel) and Peter Moyle. californiawaterblog.com/2024/09/01/wat... #CAwater

今後

- Twitter試行版アカウントの作成、配信開始
- 将来WGでの議論も踏まえつつ、環境幹事の役割の再検討
- キャリアサポート(大学・研究機関・行政・企業等の多様な活躍場所)に関する議論や集会の開催
- 教育の現場のサポート
(高校の先生方はどのようなサポートを必要としているか)